

がん情報サロンボード

2015/06/01

～がん関連図書をもっと活用しよう～

がん情報サロン 富田 明人



2009年から島根県立図書館にがん関連図書コーナーが開設されています。静岡県がんセンターの患者図書館「あすなろ図書館」を参考に300冊の蔵書を整備しましたが、その後「ふるさと島根基金」を活用し一般の方に向けた情報や医療者向けの専門書など最新の医療情報が集められています。

医療の情報は最新の情報・鮮度が大切です。新しい書籍が増えたので、最近は県外の方からも注目されリクエストが増えているようです。

平成26年度は170冊の新しいがん関連書籍が整備され、現在1400冊の図書が集められています。図書館の資料は、県立図書館のホームページから蔵書検索で探すことができます。

全国の公立の図書館では、図書の相互の貸し出しを行っており、どこの図書館でも資料を利用することができます。県立図書館では、直接来館が困難な県民の方も書籍等の資料を利用できるよう、市町村の図書館などを通して貸出しを行っています。電話でのお問い合わせは0852-22-5748です。

借りたい書籍等が決まりましたら、近くの市町村図書館の窓口へお申し出ください。

週3回の定期便で市町村図書館に配送します。

平成26年度に整備された図書目録を掲載します。がんを克服するには、一人でも多くの人が、がんに関心をもち、知識を深めることが大切です。さまざまな情報を活用して「がんのない明るい社会」の実現を目指しましょう。

(富田)

平成26年度新たに整備されたがん関連図書

	書誌情報	内容紹介	利用 対象
1	生と死をめぐる断想 岸本 葉子／著 中央公論新社 2014.11 20cm 203p	人はどこから来てどこへ行くのか? がんを経験したエッセイストが、治療や瞑想の経験、仏教・神道・心理学を涉猟し時間と存在について辿り着いた境地を、平明に深く綴る。	一般
2	死ぬな (新潮新書) 並木 秀之／著 新潮社 2014.9 18cm 190p	重度の障害、五度のがん、側近の裏切り、財産喪失…。様々な壁にぶつかりながらも、ハンデを強みに変え乗り越えてきた異色のファンドマネージャーが語る極限の人生論。	一般
3	がん告知そして家族が介護と死別をのり越えるとき バリー・J.ジェイコブス／著 星和書店 2014.9 21cm 12,305p	患者、家族の内的体験を詳細に記述した物語を軸に、がんの発病、介護、そして死別に至るまでの一連の過程を展開。長い期間、介護者の相談にのってきた著者による介護の知識や、様々な状況を想定したQ&Aも豊富に収録する。	一般
4	代読裁判 川崎 和代／編著 法律文化社 2014.6 21cm 10,217p	下咽頭癌により声を失った市議会議員・小池公夫は、第三者に発言を代読してもらうことで活動を続けようとしたが、市議会は「代読」による発言を許さなかった…。多くの支援者と共に闘った人権奪還の記録。	一般
5	生と死を抱きしめて 沼野 尚美／著 明石書店 2014.1 20cm 242p	ホスピスチャプレン(宗教的援助者)である著者が、ホスピスで自分の生と死に向き合った患者の正直な気持ちを紹介するとともに、人は自分の死をどう受け止めていくのか、自分の死からみた生をどう見つめて今を生きるかを綴る。	一般
6	患者の目線 村上 紀美子／編 医学書院 2014.4 19cm 7,257p	医師、看護師、看護教員など、20名の医療関係者が、自身の患者・家族体験をもとに「医療者の事情」と「患者・家族の本音」の2つの目線から、なっくのケアへのヒントを語る。	専門
7	患者さんトラブル予防・解決Q&A 一杉 正仁／編 メジカルビュー社 2014.9 19cm 17,213p	カルテのコピーを要求されたら? 小児に不自然なあざがあったら? 医療従事者が無用なトラブルに巻き込まれないように、さまざまな場面でどのように対応すればよいかについて、100の実例+Q&A方式で解説する。	専門
8	人間と動物の病気を一緒にみる バーバラ・N.ホロウィッツ／著 インターシフト 2014.2 19cm 401p	がん、肥満、心臓病、うつ、依存症、性病、ストレス性疾患…。動物もかかる病気の研究からヒトの新たな治療法が生まれる。統合進化医学「汎動物学」の発想と取り組みを、提唱者みずから伝える。	一般
9	一生がんにならない体をつくる 石井 光／著 幻冬舎メディアコンサルティング 2014.10 19cm 262p	粘膜の炎症を防ぐことが、がん予防に直結する。最先端がん治療の第一人者が、粘膜の炎症を防ぐ、炎症を元に戻すという切り口を中心に、「一生がんにならない体のつくり方」を解説。	一般
10	病院では教えてくれないがんにならない人の3つの習慣 おのころ 心平／著 大和出版 2014.4 19cm 212p	2万2000件超のカウンセリングでわかった“がん体質”の正体と予防の方法。がんと生活習慣に焦点を当て、がんにならない食べ方・呼吸のあり方・言葉のあり方を紹介する。	一般
11	「がん」にならないための5つの習慣 (生活実用シリーズ NHKきょうの健康) 津金 昌一郎／監修 NHK出版 2014.2 26cm 79p	がんのリスクを下げる5つの習慣、食生活改善術、運動など、普段の生活の中でできるがん予防を、科学的な根拠に基づいて解説。。	一般
12	ペコリーノがんの分子生物学 ローレン ペコリーノ／著 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014.9 25cm 17,325p	がんの発生から進展にいたる諸過程のメカニズムを遺伝子、分子のレベルで簡明に解説。それぞれのステップで治療のために介入する標的を探り、治療戦略に向けた理解を深めることに重点を置いたテキスト。	専門
13	一生医者いらずの菌活のはじめ方 辨野 義己／著 マイナビ 2013.12 19cm 199p	“菌”は百薬の長! 「うち博士」の異名をとる著者が、腸内にすむ菌を上手にコントロールして腸内環境を整えることで健康と美容を手にいれる“菌活”を提案します。	一般
14	受けたい医療101 (YOMIURI SPECIAL) 読売新聞医療部／編 読売新聞東京本社 2014.6 29cm 273p	『読売新聞』東京本社発行の夕刊に掲載された最新医療情報を新編集。心臓・血管の病気、がん治療をはじめ、中高年に多い病気や女性・子どもの病気、こころの病気など多岐にわたり、進化する医療を専門記者が分かりやすく解説。	一般
15	先進医療NAVIGATOR 2 先進医療フォーラム／編集 日本医学出版 2014.3 28cm 7,188p	先進医療のすべてを網羅した一冊。「がん領域の実用化へのTOPICS」並びに「先進医療の各技術の概要」を主要テーマに、がんの治療、再生医療の臨床的応用に関する最新の情報を第一線の研究者が解説する。	専門
16	タクティールケア入門 タクティールケア普及を考える会／編著 日経BPコンサルティング 2014.2 28cm 93p	認知症や末期がんの患者に優しく触れることで、痛みや不安を和らげるタクティールケア。手、足、背中の手技を写真とイラストで解説し、タクティールケアを取り入れている日本国内の施設を紹介する。	一般
17	胃の拡大内視鏡診断 八木 一芳／著 医学書院 2014.10 26cm 9,147p	慢性胃炎および分化型・未分化型早期胃癌の拡大内視鏡診断について、拡大観察時の着眼点、所見の捉え方・考え方などを説明。	専門
18	ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会／監修 南山堂 2014.4 26cm 7,286p	がん、精神疾患、生活習慣病など各疾患治療や臨床試験、在宅や病棟業務におけるチーム医療の場面で、どのような表現・言葉づかいでコミュニケーションを図るのが望ましいのかを具体的に解説。	専門

平成26年度新たに整備されたがん関連図書

	書誌情報	内容紹介	利用 対象
19	外来がん化学療法看護ガイドライン 2014年版1 金原出版 2014.2 26cm 93p	抗がん剤の血管外漏出の予防、デバイス合併症の早期発見、対処に対する専門的判断と技術を提供できる実際的な指針を示すガイドライン。CQを新たに追加し、抗がん剤の分類を再考する。	専門
20	ケアの疑問解決Q&A (Nursing Mook) 『月刊ナーシング』編集室／編集 学研メディカル秀潤社 2014.9 26cm 183p	抗がん薬が血管外漏出したときは? 片麻痺のある脳卒中患者の体位は? 脆弱な皮膚のケアはどうするの? 臨床でよく遭遇するケアの疑問に、認定看護師がQ&A形式で解説する。『月刊ナーシング』連載を書籍化。	専門
21	はじめてでもやさしいがん化学療法看護 小西 敏郎／編集 学研メディカル秀潤社 2014.5 26cm 6,137p	看護師が主導のがん化学療法のためのガイドブック。がん化学療法の業務をスタートする看護師に向けて、抗がん薬の知識、副作用、薬剤の調整・管理、投与方法、さらに外来がん化学療法でのケアまで、写真やイラストを交えて解説。	専門
22	ナースによるナースのためのがん患者のペインマネジメント (Nursing Today) 高橋 美賀子／編集・執筆 日本看護協会出版会 2014.2 26cm 8,134p	がん疼痛に焦点を当て、ペインマネジメントを実施するうえで看護師が知っておくべき生理学的知識や薬理学的知識を、アセスメントや疼痛緩和技術についての「根拠(Evidence)」に触れながらわかりやすく解説する。	専門
23	がん疼痛治療の薬-非オピオイド鎮痛薬・オピオイド鎮痛薬・鎮痛補助薬-はや調ベノート 森田 達也／編 メディカ出版 2014.8 28cm 175p	緩和ケアの多種多様な薬剤を使用するうえでのまとまった知識をわかりやすく提供する本。	専門
24	リンパ浮腫の退院時セルフケア指導 近藤 敬子／編集 日本看護協会出版会 2013.12 26cm 7,110p	リンパ浮腫についての基礎知識をはじめ、治療の基礎、退院時指導を行うための基礎知識、患者指導時のポイントを、イラストや表を交えてわかりやすく解説する。看	専門
25	「血液のがん」と言われたら… (お医者さんの話がよくわかるから安心できる) 小澤 敬也／著 保健同人社 2014.10 21cm 159p	患者や、その家族など一般の人を対象に、白血病、悪性リンパ腫について、完治が見込める治療等を詳しく解説。高齢者に多い骨髄異形成症候群や、多発性骨髄腫の新しい治療法も紹介します。	一般
26	多発性骨髄腫Updating 第5巻 清水 一之／編集委員長 医薬ジャーナル社 2014.3 26cm 171p	多発性骨髄腫という疾患を正しく理解するためのテキスト。第5巻では、高齢ゆえの生物学的問題が軽視できない、65歳以上の移植非適応患者に対する最新の治療戦略について紹介する。	専門
27	多発性骨髄腫Updating 第6巻 清水 一之／編集委員長 医薬ジャーナル社 2014.8 26cm 295p	第6巻では、AL(免疫グロブリン軽鎖)アミロイドーシスと多発性骨髄腫類縁疾患を取り上げ、基礎から臨床まで、最新の知見を含めて解説する。	専門
28	多発性骨髄腫Updating 第7巻 清水 一之／編集委員長 医薬ジャーナル社 2014.11 26cm 203p	第7巻では、再発・難治多発性骨髄腫を取り上げ、コンセンサスに基づいた治療法とその効果を紹介。次世代新規薬剤についても、臨床試験からの知見を交えて解説する。	専門
29	リンパ浮腫診療ガイドライン 2014年版 日本リンパ浮腫研究会／編 金原出版 2014.2 26cm 14,72p	癌治療に伴い上肢や下肢に生じる続発性(二次性)リンパ浮腫について、エビデンスをもとに診療の指針を提示する。リンパ浮腫診療に携わる臨床医、メディカルスタッフの必携書。	専門
30	レベルアップのためのリンパ腫セミナー 日本リンパ網内系学会教育委員会／編集 南江堂 2014.7 21cm 8,260p	リンパ腫診療の基礎知識から、知っておきたい病理の知識、治療のポイント、押さえておきたいトピックスまで、豊富な図表とともにわかりやすく解説。	専門
31	リンパ腫アトラス 森 茂郎／監修 文光堂 2014.10 26cm 13,407p	リンパ腫の病理に関する最新情報を、豊富なカラー写真とともに掲載。関連疾患との鑑別、病型の日本と外国における発生頻度の比較も収録する。第4版。	専門
32	ガイドラインには載っていない肺がんPractical Treatment 大江 裕一郎／編集 メジカルビュー社 2014.2 26cm 13,209p	合併症・基礎疾患をもつ患者、エビデンスの乏しい肺がん患者に対する治療について、がん薬物療法医はどのように対処し、治療するかを詳しく解説。化学療法だけではない治療全般にも対応する。	専門
33	縦隔腫瘍の画像診断と病理 櫛橋 民生／編著 中外医学社 2014.4 26cm 4,153p	前縦隔腫瘍、中・後縦隔腫瘍、傍脊椎腫瘍、腫瘍類似縦隔病変などを取り上げ、それらの画像診断法を解説する。PET/CT、MRI拡散強調画像といった新しい画像診断や、縦隔病変に対するIVRなども収録。	専門
34	症例から学ぶ肺癌最新治療ストラテジー (Case Library Series) 倉田 宝保／監修 メディカルレビュー社 2014.4 26cm 195p	肺癌の実際の症例を呈示し、治療経過、考察とともに、コメンテーターによる意見を紹介する。肺癌治療の現状と展望も収録。Webサイト版を閲覧できるシリアルナンバー付き。	専門
35	縦隔腫瘍・胸膜腫瘍 (腫瘍病理鑑別診断アトラス) 深山 正久／編集 文光堂 2014.4 27cm 297p	検鏡前の確認事項から、組織型と診断の実際、鑑別ポイント、臨床との連携まで、多彩な鑑別診断が必要な縦隔腫瘍・胸膜腫瘍を詳細に解説する。	専門
36	EBMの手法による肺癌診療ガイドライン 2014年版 日本肺癌学会／編 金原出版 2014.11 26cm 12,201p	肺癌に関してEBMの手法に基づいた効果的・効率的な診断・治療法を体系化したガイドライン。「肺癌の診断」「非小細胞肺癌」「小細胞肺癌」「転移など各病態に対する治療」の4項目で構成。	専門

平成26年度新たに整備されたがん関連図書

	書誌情報	内容紹介	利用 対象
37	よくわかる肺がんQ&A 西日本がん研究機構／編集 金原出版 2014.11 26cm 12,187p	肺がん患者とその家族のさまざまな疑問・質問や不安に、Q&A形式で答えたガイドブック。	一般
38	「膵がん」と言われたら… (お医者さんの話がよくわかるから安心できる) 跡見 裕／著 保健同人社 2014.6 21cm 127p	膵がんの90%を占める浸潤性膵管がんを中心に、検査や診断、さまざまな術式による手術法やその他の治療法など、最新の情報をわかりやすく解説する。	一般
39	胃と腸アトラス 1 八尾 恒良／監修 医学書院 2014.5 31cm 21,368,10p	本邦独自の消化管診断学を集成した、臨床に役立つ決定版アトラス。1は、上部消化管の疾患を取り上げ、咽頭、食道、胃、十二指腸の計173項目を掲載する。	専門
40	胃と腸アトラス 2 八尾 恒良／監修 医学書院 2014.5 31cm 19p,p370ー703 10p	2は、下部消化管の疾患を取り上げ、小腸、大腸の計143項目を掲載する。	専門
41	消化器癌化学療法 (オンコロジークリニカルガイド) 大村 健二／編 南山堂 2014.11 26cm 13,462p	消化器癌化学療法に焦点を当て、第一線で活躍するエキスパートらが、図表を多用して解説する。国内外の大規模臨床試験や米国臨床腫瘍学会 ASCOなどの情報をアップデートした第4版。	専門
42	患者と家族にもよくわかるGIST<消化管間質腫瘍>ガイドブック 西田 俊朗／監修 メディカルレビュー社 2014.1 26cm 135p	GIST(消化管間質腫瘍)とはどんな病気かをはじめ、GISTの検査と診断、治療、緩和ケア、患者体験記、治療・生活についてのQ&Aを収録したガイドブック。	一般
43	唾液腺疾患のMRI 柏木 伸夫／編集 メジカルビュー社 2014.10 31cm 163p	唾液腺腫瘍の画像診断への編者らの経験を活かし、病理組織像を正確に反映するMRIを中心とした画像所見から、診断のポイント等をわかりやすく解説する。	専門
44	ガイドラインには載っていない消化管がんPractical Treatment 山田 康秀／編集 メジカルビュー社 2014.8 26cm 16,281p	臓器機能障害例、糖尿病・循環器疾患など併存疾患のある症例、高齢者等、ガイドライン通りに治療できない消化管がん患者に対する治療法について、薬剤・治療選択、および投与量の決定に関する考え方をまとめる。	専門
45	癌診療指針のための病理診断プラクティス 肝・胆・膵腫瘍 青笹 克之／総編集 中山書店 2014.12 26cm 8,372p	肝・胆・膵腫瘍診断の実際的かつスタンダードな知識を提供するテキスト。	専門
46	ガイドラインに沿った大腸癌化学療法の要点と盲点 (Knack & Pitfalls) 杉原 健一／編集 文光堂 2014.11 26cm 5,183p	「大腸癌治療ガイドライン 医師用2014年版」に記載されている化学療法を実践に応用するためのコツや、ガイドラインの行間を埋める知識、レジメンを駆使している医師たちの経験に基づいた化学療法の考え方などを紹介する。	専門
47	消化器がん化学療法副作用マネジメント 小松 嘉人／編集 メジカルビュー社 2014.9 19cm 439p	消化器がん化学療法における、レジメンごとの治療の流れに沿って、副作用マネジメントのコツを徹底解説。副作用の出現時期、有害事象の原因と原因別の対処法などもわかりやすく記載する。	専門
48	甲状腺・副甲状腺疾患診療ポケットブック 田上 哲也／著 中外医学社 2014.4 19cm 2,180p	甲状腺疾患診療のエッセンスをコンパクトに凝縮。各症状のポイントや概念・定義、疫学、症候、原因、検査、診断、治療と予後、処方例などを収録する。	専門
49	大腸癌治療ガイドライン 2014年版 大腸癌研究会／編集 金原出版 2014.1 26cm 13,103p	大腸癌治療に従事する医師を対象に、大腸癌の標準的な治療方針を示す。新しい治療法などを改訂した2014年版。	専門
50	患者さんのための大腸癌治療ガイドライン 2014年版 大腸癌研究会／編 金原出版 2014.7 26cm 8,66p	大腸癌の適切な治療を受けるために必要な、大腸癌の正しい知識をイラストや写真を交えてわかりやすく紹介。Q&Aも収録。手術治療、内視鏡治療、化学療法、検査法など最近の動向を取り入れた2014年版。	一般
51	大腸癌取扱い規約 大腸癌研究会／編 金原出版 2013.7 26cm 18,104p	原発性大腸に発生した癌腫の取扱い方法を示す規約。第8版。	専門
52	大腸がん (健康ライブラリー) 高橋 慶一／監修 講談社 2014.10 21cm 98p	大腸がんの状態と治療の基本方針から、手術後の生活を考えた治療法の選び方、手術後のケア、人工肛門のケア、食事・入浴・仕事の注意点などの治療後に安心して暮らすコツ、再発・転移時の治療までを徹底解説する。	一般
53	大腸ポリープ診療ガイドライン 2014 日本消化器病学会／編集 南江堂 2014.4 26cm 21,167p	大腸ポリープのみならず、表面型を含めた腫瘍性病変・早期癌・ポリープシスなどの「大腸局在性病変」すべてを対象とした診療ガイドライン。定義・分類や分子生物学的内容にまで踏み込む。	専門
54	胃癌治療ガイドライン 2014年5月改訂 日本胃癌学会／編 金原出版 2014.8 26cm 10,58p	胃癌に対する手術、内視鏡的切除、化学療法のそれぞれに関して、治療法の定義、推奨される治療法と適応を示す。臨床診断に沿ったアルゴリズムとStage別の治療法一覧も収録する。	専門

平成26年度新たに整備されたがん関連図書

	書誌情報	内容紹介	利用 対象
55	臨床・病理胆道癌取り扱い規約 日本肝胆膵外科学会／編 金原出版 2013.11 26cm 16,93p	胆道癌の治療成績の向上をめざした、臨床的・病理学的取り扱い方法についての規約第6版。	専門
56	門脈圧亢進症取り扱い規約 日本門脈圧亢進症学会／編 金原出版 2013.5 26cm 114p	食道静脈瘤治療法の発展に貢献することを目的として編集した門脈圧亢進症取り扱い規約。第3版。	専門
57	膵癌取り扱い規約 日本膵臓学会／編 金原出版 2013.8 26cm 11,57p	治療成績の向上を目的に、膵癌の臨床的・病理学的な取り扱いを規定した規約。第6版補訂版。	専門
58	経鼻内視鏡による胃がん検診マニュアル 日本消化器がん検診学会胃細径内視鏡検診研究会／編集 日本消化器がん検診学会 2014.3 28cm 11,100p	経鼻内視鏡による“望ましい”検診について、標準的な使用方法等を幅広く解説する。	専門
59	胃がんリスク検診<ABC検診>マニュアル 日本胃がん予知・診断・治療研究機構／編 南山堂 2014.11 26cm 9,233p	将来胃がんになりやすいかどうかを4段階に層別化する胃がんリスク検診(ABC検診)。その実際から、現状での問題点、実施例までを解説する。	専門
60	膵がん・胆道がん薬物療法ハンドブック 古瀬 純司／編集 南江堂 2014.7 18cm 12,207p	膵がん・胆道がん治療のアルゴリズムから、膵がん・胆道がんで用いられる薬物療法の実践、副作用に対する注意点と対策、緩和治療、チーム医療についてまで、エッセンスを凝縮して解説。	専門
61	やさしい膵・胆道がん外来化学療法の自己管理 古瀬 純司／編著 医薬ジャーナル社 2014.5 30cm 142p	早期診断が難しく、化学療法の役割が非常に大きい膵・胆道がん。標準化学療法の治療方法や、主な抗がん剤と注意点、主な副作用と自宅での対応、外来化学療法の実際を解説します。	一般
62	HEPATOLOGY PRACTICE VOL.5 竹原 徹郎／常任編集 文光堂 2014.9 26cm 12,338p	肝疾患の基礎から診療の最前線まで、鋭く切り込むシリーズ。VOL.5は、肝癌の診断と治療の最先端を徹底的に解説する。	専門
63	消化器がん化学療法レジメンブック 室 圭／編著 日本医事新報社 2014.10 26cm 362p	2014年10月時点の全レジメンを簡潔に解説し、治療継続のネックとなる有害事象について詳述。	専門
64	心配しないでいいですよ再発・転移大腸がん 山口 俊晴／編集 真興交易(株)医書出版部 2014.4 21cm 240p	大腸がんはどのように再発するのか、もし再発・転移した場合にはどのような治療法があるのか、患者にはどのような心構えが必要かなど、再発に関する様々な事柄を分かりやすい言葉で解説。	一般
65	大学教授がガンになってわかったこと (幻冬舎新書) 山口 仲美／著 幻冬舎 2014.3 18cm 252p	現在抗ガン剤治療中の大学教授が二度のガン患者体験を踏まえて語る、「賢いガン患者」になるための手引き書。	一般
66	40歳からの女性の医学 骨粗鬆症 井上 聡／著 岩波書店 2008.10 19cm 9,111,4p	症状や治療のほか、骨の減少に歯止めをかけ、骨量を増やす予防法などを解説する。	一般
67	見逃さない!骨・軟部腫瘍外科画像アトラス 大幸 俊三／著 全日本病院出版会 2014.5 26cm 11,149p	骨・軟部腫瘍の症例を疾患別・部位別に分けて画像診断や外科療法を具体的に示す。“見逃さないための視点”をベースにしたケーススタディが役立つテキスト。	専門
68	癌診療指針のための病理診断プラクティス 骨・軟部腫瘍 青笹 克之／総編集 中山書店 2013.12 26cm 8,411p	骨・軟部腫瘍の病理診断の実際のかつスタンダードな知識を提供するテキスト。	専門
69	骨転移の診療とリハビリテーション 大森 まいこ／編 医歯薬出版 2014.3 26cm 6,272p	診断・治療からリハビリテーション、緩和ケアまで、骨転移患者のQOL向上のための多職種による包括的なチームアプローチを、いかに行うかを具体的に示す。「がんのリハビリテーションガイドライン」に準拠。	専門
70	40歳からの女性の医学 関節リウマチ 田中 良哉／著 岩波書店 2009.3 19cm 9,113,7p	症状、検査と診断、最新の治療法、治療薬とその副作用、患者が受けられる医療保障と福祉制度など詳しく解説。	一般
71	転移性脳腫瘍診断・治療・管理マニュアル 中川 和彦／監修 メディカ出版 2014.12 26cm 158p	転移性脳腫瘍について概要を説明するとともに、その診断・治療を写真を用いて解説。	専門
72	医学的音楽療法 呉 東進／編著 北大路書房 2014.7 21cm 9,291p	音や音楽の作用機序を解説した総論を踏まえ、癌、疼痛、認知症、発達障害といった対象となる疾患別に、臨床場面における医学的音楽療法の適応と方法を実践的に示す。	専門

平成26年度新たに整備されたがん関連図書

	書誌情報	内容紹介	利用 対象
73	Depression Frontier Vol.12No.2(2014) 医薬ジャーナル社 2014.10 28cm 106p	特集では、がん患者の抑うつへの介入効果について4名の専門家が再考。	専門
74	小児がん治療後の長期フォローアップガイドライン JPLSG長期フォローアップ委員会長期フォローアップガイドライン作成ワーキンググループ／編 医薬ジャーナル社 2013.12 26cm 355p	小児がん患者の治療後の長期フォローアップに必要なガイドラインを疾患別に記載。症状や臓器別に注意すべき点や、心理的・社会的な問題、輸血、予防接種などについても取り上げる。	専門
75	メモするだけでラクになる「がん手帳」のつけ方 相羽 恵介／著 WAVE出版 2014.7 19cm 143p	抗がん剤治療中や再発への不安を抱えている人に向けて、不安がやわらぎ、治療・生活の質が向上し、医師とのコミュニケーションが変わる手帳のつけ方を紹介する。	一般
76	がんで死なない治療の選択 阿部 博幸／著 徳間書店 2014.5 19cm 203p	人間の身体に備わっている免疫システムを研究して生まれた最新のがん治療法、免疫細胞療法を紹介。	一般
77	1週間で退院できるがん手術 (経営者新書) 宇山 一朗／著 幻冬舎メディアコンサルティング 2014.9 18cm 225p	3人のスーパードクターが、最先端ロボットによるがん手術の現状とそのメリットをわかりやすく解説し、ロボット手術によって健康な生活を取り戻した患者の事例を紹介しします。	一般
78	がん患者の輸液・栄養療法 大村 健二／編 南山堂 2014.9 26cm 8,278p	がん治療による消化管への影響、周術期および化学療法・放射線療法時における輸液・栄養療法の進め方とマネジメントなどについて解説する。	専門
79	その鎮静、ほんとうに必要ですか 大岩 孝司／著 中外医学社 2014.10 21cm 3,6,124p	がん終末期に痛みなどの身体的苦痛に苦悩している患者の症状の緩和は十分に可能であることを実際の症例で示す。	専門
80	ひとりで死ぬのだって大丈夫 奥野 滋子／著 朝日新聞出版 2014.5 19cm 236p	「たった一人でも大丈夫」といえる最後の日々のあり方を、緩和ケア医が具体的な事例とともに提案する。	一般
81	がん「余命宣告」でも諦めない 帯津 良一／著 毎日新聞社 2014.2 19cm 173p	東西医学を知り尽くした著者が、がんにくつ心得や代替療法の基礎知識、代替療法を取り入れたがん治療で快復した症例などを紹介しします。	一般
82	肺癌・頭頸部癌・甲状腺癌取扱い規約抜粋 金原出版編集部／編 金原出版 2012.8 15cm 9,165p	肺癌・頭頸部癌・甲状腺癌の各取扱い規約より、特に臨床に関連深い記載事項を抜粋し、日常診療に即役立つ内容を持ち運びに便利なポケットサイズとしてまとめる。	専門
83	「抗がん剤は効かない」の罪 勝俣 範之／著 毎日新聞社 2014.3 19cm 198p	最前線の腫瘍内科医が、「抗がん剤は効かない」を書いた近藤誠医師の誤った見解を指摘し、医学的に正す。そしてがんをどう受け止め、どう向き合い、どう闘っていけばよいのかについて述べる。	一般
84	がんのしおり 2013 社会保険出版社 2014.3 30cm 114p	がんの動向、日本のがん対策、たばこや食物とがんの関係、各がんの現状とできる部位など、がんに関する幅広いデータを、統計グラフを中心にビジュアルに紹介。	一般
85	「がん治療」のウソ (宝島社新書) 近藤 誠／ほか著 宝島社 2014.2 18cm 251p	早期がんは焦って手術する必要はない。がん検診ががんを招く…。検診、治療から緩和ケアに到るまで、医師たちによるがん治療の常識への異論や提言を紹介。	一般
86	Q&Aでわかるがん疼痛緩和ケア 的場 元弘／監修 じほう 2014.9 21cm 434p	がんの疼痛緩和について、がん診療の現場で活躍する第一人者が、Q&A形式でわかりやすく解説する。	専門
87	ガンを消す食事完全レシピ166 済陽 高穂／監修 主婦と生活社 2014.2 25cm 159p	消化器外科の権威が考案した、ガン予防&改善のためのレシピ集。限りなく無塩に近づける、野菜・果物をたっぷりとりなど、済陽式食事療法「8つの法則」に基づいたオリジナルレシピを豊富に紹介。	一般
88	がんを「味方」にする生き方 (日経プレミアシリーズ) 小林 博／著 日本経済新聞出版社 2014.9 18cm 218p	自らのがん体験をバネに前向きに生きる、がん研究の大家が、自分に合った予防・治療法から、がんと対決・対話する心構え、「ピンピン枯れる」理想の死の迎え方まで、がんと賢く付き合う極意を説く。	一般
89	近藤先生、「がんは放置」で本当にいいんですか? (光文社新書) 近藤 誠／著 光文社 2014.9 18cm 221p	がんになったらどうするのが一番の得策か。日本のがん治療に真っ向から異議を唱えてきた孤高の学者が、平穏に天寿を全うするために身につけるべき知識と考え方を指南する。	一般
90	これでもがん治療を続けますか (文春新書) 近藤 誠／著 文藝春秋 2014.4 18cm 213p	「がんの真実」を追究してきた近藤誠による、「近藤誠がん研究所」のノウハウを初公開。命と健康を守るには、断片的な情報にすぎない、がんの基本的なしくみを理解する方がはるかに大事だとわかりやすく説く。	一般

平成26年度新たに整備されたがん関連図書

	書誌情報	内容紹介	利用 対象
91	がんより怖いがん治療 近藤 誠／著 小学館 2014.11 19cm 207p	「命を縮める治療」があります。慶應病院で医師歴40年の近藤誠が、「患者は実験台」の現実を明かす。安易な手術、抗がん剤治療を批判してきた著者の集大成。	一般
92	抗悪性腫瘍薬安全使用マニュアル 西條 長宏／編 医薬ジャーナル社 2014.5 19cm 774p	抗悪性腫瘍薬について、その概要や作用機序を解説するとともに、対象疾患に対する標準的治療を効果・副作用を含め、エビデンスに基づき詳細に記載。	専門
93	最期まで自分らしく生きるためにできること ホスピスケア研究会／監修 河出書房新社 2014.2 19cm 269p	病気のこと、家族との関係、お金のこと…。がん患者とその家族から電話相談を受けている「NPO法人ホスピスケア研究会」が、さまざまな場面で生じる問題点とアドバイスを伝える。	一般
94	チャートでわかるがん外来化学療法の実践 リアル 聖マリアンナ医科大学病院腫瘍センター／編集 南江堂 2014.7 26cm 8,140p	がん外来化学療法で遭遇することの多い副作用トラブルについて、処方の実際、主な副作用と発現時期、投与前の注意点などを詳しく解説する。	専門
95	がん治療副作用対策マニュアル 田村 和夫／編集 南江堂 2014.7 21cm 9,348p	がん治療における副作用対策、特に化学療法・放射線療法の処置と治療法について、予防的措置と副作用の発現時の処置に分けて解説。	専門
96	頭頸部がん化学療法ハンドブック 藤井 正人／監修 中外医学社 2014.5 19cm 4,190p	頭頸部がん化学療法に特化したマニュアル。海外の臨床試験によるエビデンスをもとに、重要なレジメンをすべて網羅し、副反応対策や支持療法を示す。	専門
97	大切な人に最期にしてあげられること ホスピスケア研究会／監修 河出書房新社 2014.2 19cm 267p	もし家族や恋人が余命僅かだと知ったら…。告知、在宅ケアの注意点、本人の希望の叶え方などについての不安や疑問に答える本。	一般
98	断食でがんは治る (双葉新書) 鶴見 隆史／著 双葉社 2013.12 18cm 223p	酵素医療の第一人者が、なぜ日本人のがんが減らず、治らないのかを解説し、「腸を正す」鶴見式がん治療と、がんにならないためのライフスタイルを紹介する。	一般
99	緩和ケアエッセンシャルドラッグ 恒藤 暁／著 医学書院 2014.10 14cm 12,317p	「国際ホスピス緩和ケア協会による緩和ケア必須薬」を基に約50種類のエッセンシャルドラッグを厳選。がん患者の症状マネジメントを概説する。	専門
100	ガンが逃げ出す漢方力 丁 宗鐵／著 ヴィレッジブックス 2014.6 18cm 191p	たとえ西洋医学で手遅れだといわれても、諦めるのはまだ早い! 漢方医療の専門医が、漢方によるガン治療の実際について詳しく解説する。ガンにならないための生活習慣・食習慣も紹介。	一般
101	抗がん剤が効く人、効かない人 (PHP新書) 長尾 和宏／著 PHP研究所 2014.5 18cm 172p	抗がん剤の有効な使い方、医者の本音、医者と良好な関係を保てるセカンド・オピニオンの取り方など、賢い治療の受け方を町医者が明かす。	一般
102	がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員会／編集 金原出版 2014.6 26cm 15,325p	がん疼痛にまつわる65の臨床疑問について、推奨、解説、既存のガイドラインとの整合性、文献を詳述。ほか、がん疼痛治療を行ううえで知っておくべき基礎知識なども収録する。	専門
103	頭頸部癌取り扱い規約 日本頭頸部癌学会／編 金原出版 2012.6 26cm 11,117p	頭頸部癌症例を扱うにあたり、同一基準に則った臨床統計学的資料を得るための規約。解剖学的事項、治療成績の表示、部位別臨床病期分類およびその付属事項などを収録する。	専門
104	患者さんと家族のためのがんの痛み治療ガイド 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員会／編集 金原出版 2014.6 26cm 124p	がん患者とその家族にむけて、痛みの治療を受けるために知っておきたいこと、痛みの伝え方、治療のしくみ、痛みどめ、薬以外による痛みの緩和方法などについて、Q&A形式でわかりやすく解説します。	一般
105	がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン 日本ペインクリニック学会がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン作成ワーキンググループ／編 真興交易(株) 医書出版部 2014.2 26cm 6,127p	代表的なインターベンショナル治療法について、鎮痛原理、適応、症例、合併症、臨床質問(CQ)、施行法を述べるほか、身体部位ごとのがん性痛の原因と症状、適応になるインターベンショナル治療法を記す。	専門
106	がん患者3万人と向きあった医師が語る正直ながんのはなし 西尾 正道／著 旬報社 2014.8 19cm 191p	手術をせず、抗がん剤の副作用にも苦しめない、生活の質も維持できる治療法はある! 40年間、放射線治療の第一人者として活躍を続ける著者が、がん完治への道を明かす。	一般
107	NST・緩和ケアチームのためのがん栄養管理完全ガイド 比企 直樹／編集 文光堂 2014.2 21cm 8,407p	がん患者の栄養管理法を、緩和ケアやQOLの維持を意識しつつ、基本概念から臨床現場での実際までまんべんなく解説。	専門
108	がんにならない、負けない生き方 (日本屈指の名医が教える「健康に生きる」シリーズ) 平方 眞／著 サンマーク出版 2014.10 19cm 197p	がんにならないためにはどうすればいいか、がんになっても寿命まで生きるにはどうすればいいか、命を失うことが避けられないときにはどうすればいいか。	一般

平成26年度新たに整備されたがん関連図書

	書誌情報	内容紹介	利用 対象
109	がんと診断された私が生きるためにやったこと (角川SSC新書) 広浜 千絵／著 KADOKAWA 2014.3 18cm 206p	胃がん、乳がん罹患した多重がん体質の著者が、多くのがん体験者に取材し、自分の経験も交えながら、がん患者にとって本当に必要な情報を紹介する。	一般
110	がん薬物療法キードラッグ65 古瀬 純司／編著 中外医学社 2014.6 19cm 4,335p	がんの薬物療法で重要な“キー”となる65の薬剤を選び、各薬剤の作用機序と特徴、主な適応や副作用とその対策、さらに適応疾患別の特徴を現場で役立つようコンパクトに収載する。	専門
111	放射線治療学 井上 俊彦／編集 南山堂 2014.4 27cm 26,412p	臨床放射線治療学において検証に基づく多くの治療法を開発してきた大阪大学によるテキスト。放射線治療の基礎から治療機器紹介、疾患別の診断や治療法、緩和治療、展望までをまとめる。	専門
112	今からできるがんにくつ体の鍛え方 星野 泰三／監修・著 青月社 2014.7 19cm 221p	余命宣告を決める要因を取り除いていけば、それを取り消せる可能性があることを説明し、がんが育たない「土壌」づくりや、余命宣告を覆す方法、自宅での治療などについて綴る。	一般
113	がん治療に苦痛と絶望はいらない 前田 華郎／著 講談社 2014.5 19cm 222p	従来の現代西洋医学の常識とは異なる、独自のがんの治療法「CEAT」を紹介する。三大療法の限界と問題点も解説。	一般
114	教えて在宅緩和ケア 前野 宏／編著 北海道新聞社 2014.9 19cm 267p	たとえ末期がんになっても、最期まで自宅で過ごすことは可能です。そのために必要となる在宅緩和ケアの具体例や、しくみ、費用、開始から終了までを紹介します。	一般
115	がん治療革命 森崎 隆／著 現代書林 2014.3 22cm 239p	がん治療は分子標的薬と免疫抗体医薬、細胞療法、ゲノム解析に基づく個別化医療の時代へと進化する。難治がん治療の最前線に立つ医師が、治療の現状、近未来の予測、そして未来への提言を行う。	一般
116	放射線治療ケーススタディ 山下 英臣／著 新興医学出版社 2014.6 26cm 12,163p	実際の症例から学ぶ、放射線治療の入門書。どのような症例・病態のときに、どのような放射線治療をすすめるのがよいかを東大プロトコルに即して解説する。	専門
117	実践がんサバイバーシップ 日野原 重明／監修 医学書院 2014.4 21cm 19,234p	がんサバイバーシップとは何かから、サバイバーへの関わり方、患者会の活動までを解説する。	専門
118	がん医療における意思決定支援 吉田 沙蘭／著 東京大学出版会 2014.2 22cm 2,202p	がん患者の家族の意思決定支援、とくに患者の予後に関する告知をテーマに取り上げ、そのあり方について多角的な検討をおこない、意思決定の過程を支える支援ツールを提案する。	一般
119	TNM悪性腫瘍分類カラーアトラス Philip Rubin／[著] 丸善出版 2014.8 28cm 12,738p	グラントの解剖図を駆使して、頭頸部、胸郭、腹部、泌尿器系、皮膚・筋骨格系など、全身部位のがんのステージングを各科横断的に見える化したTNM分類のビジュアル解説書。	専門
120	3か月で驚くほどよくなる!がんを死滅させる食事 済陽 高穂／著 宝島社 2014.11 19cm 143p	消化器外科の名医が、食事療法を適切に行うことで、がんを克服できることを伝える。自宅できる、がんを死滅させるレシピや、済陽式食事療法「8大原則」も掲載。	一般
121	胃外科のすべて 胃外科・術後障害研究会／編 メジカルビュー社 2014.3 26cm 351p	胃の手術の術者・助手を務めるために必要な知識や手術手技、術後障害について、写真や図表を豊富に用いてわかりやすく解説する。	専門
122	肝臓 (がん研スタイル癌の標準手術) 山口 俊晴／監修 メジカルビュー社 2014.3 30cm 206p	がん研有明病院で日常的に行われている肝臓の標準手術について、手術の手順に沿って、各場面でのポイントをイラストで示しながら手技上の注意点・コツをわかりやすく解説する。	専門
123	胃がんに対する腹腔鏡下胃切除術練習帳 白石 憲男／著 メジカルビュー社 2014.4 30cm 8,235p	外科医が腹腔鏡下胃切除術の安全な手術手技をより効果的に習得するためのテキスト。	専門
124	皮膚科臨床アセット 17 古江 増隆／総編集 中山書店 2014.6 26cm 16,364p	最新の皮膚科学を日常診療に直結する視点に立ってわかりやすく解説。17は、皮膚の悪性腫瘍をとりあげ、分子標的治療薬や免疫療法など、新しい治療法を詳述。	専門
125	ドクター赤座の泌尿器がん最新情報 赤座 英之／著 春秋社 2014.1 21cm 12,179p	泌尿器がん(前立腺がん・膀胱がん・腎細胞がん)の標準治療と最新の動向について、治療選択の指針となるよう、エビデンスをもとにやさしい言葉で解説する。	一般
126	イラストでわかる前立腺がん (手術後・退院後の安心シリーズ) 伊藤 晴夫／監修 法研 2014.4 21cm 159p	前立腺がんの基礎知識から、治療の実際、治療の合併症・後遺症・副作用の対処法、治療中・治療後の日常生活の処方と推奨する食事までをイラストを交えて解説。	一般

平成26年度新たに整備されたがん関連図書

	書誌情報	内容紹介	利用 対象
127	これで安心!前立腺がん・前立腺肥大症 市川 智彦／監修 高橋書店 2014.1 21cm 159p	男性の尿トラブルの主な原因である前立腺がんと前立腺肥大症。その基礎知識から、泌尿器科で行われる検査、最新治療、治療中・治療後の生活の工夫までを、イラストを交えながら解説します。	一般
128	前立腺がん (別冊NHKきょうの健康) 舘川 晋／総監修 NHK出版 2014.10 26cm 95p	前立腺がんの基礎知識から、検査と診断、治療、治療後の生活を安心して送る方法までを紹介。治療後に望む生活をイメージして、自分に合った治療法が選べるよう、イラストを交えてわかりやすく解説する。	一般
129	腎癌のすべて 田邊 一成／編集 メジカルビュー社 2014.4 26cm 13,392p	腎癌疫学、腎癌の分子生物学、腎癌の診断、腎腫瘍の画像診断、腎癌の病期分類、腎癌と鑑別を必要とする疾患、腎癌の治療などについて解説。	専門
130	腎盂・尿管癌診療ガイドライン 2014年版 日本泌尿器科学会／編 メディカルレビュー社 2014.4 26cm 70p	腎盂・尿管癌の診療に携わる医師のためのガイドライン。	専門
131	泌尿器科癌取り扱い規約 日本泌尿器科学会／編 金原出版 2013.4 15cm 13,223p	「前立腺癌取り扱い規約(第4版)」「腎癌取り扱い規約(第4版)」「腎盂・尿管・膀胱癌取り扱い規約(第1版)」「精巣腫瘍取り扱い規約(第3版)」から、臨床・研究のエッセンスを抜粋し、一冊にまとめる。	専門
132	OGS NOW 19 平松 祐司／編集委員 メジカルビュー社 2014.8 30cm 201p	「腹腔鏡・子宮鏡手術」の基本を取り上げ、具体的な練習法から、アプローチ法、器具、腹腔鏡・子宮鏡で行う基本手技などについて、豊富なイラストで詳細に解説する。	専門
133	OGS NOW 20 平松 祐司／編集委員 メジカルビュー社 2014.11 30cm 221p	2014年に保険収載された腹腔鏡での悪性腫瘍手術や、腹腔鏡・子宮鏡に特有の合併症への対処法を中心に、オールカラーのイラストと写真で丁寧に解説した応用編。	専門
134	これからの乳癌診療 2014-2015 園尾 博司／監修 金原出版 2014.7 26cm 195p	日本を代表する乳癌のエキスパートたちが、乳癌に関する内外知見の中から研究の進歩やトピックスを集約。年鑑のよどころになるよう簡潔に、理解しやすく記述する。	専門
135	乳癌診療アプリケーションノート 国立がん研究センター中央病院乳腺グループ／編 南山堂 2014.7 26cm 11,173p	乳癌診療の流れに沿って、診断・治療方法の方針を箇条書きで簡潔に示した診療マニュアル。	専門
136	40歳からの女性の医学 乳がん 佐伯 俊昭／著 岩波書店 2009.9 19cm 10,166,6p	乳がんのメカニズム、自己検診の方法や症状、検査と診断、治療方法、治療後のケア、再発・転移したときの対処などを詳解。	一般
137	症例から学ぶ乳癌最新治療ストラテジー (Case Library Series) 佐伯 俊昭／監修 メディカルレビュー社 2014.3 26cm 11,173p	原発性と転移性の乳癌を対象に、化学療法、ホルモン療法、分子標的治療薬を用いた症例に焦点を当て、具体的なレジメンや投与量などを紹介。副作用のマネジメントも付記する。	専門
138	子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん患者さんへのドクターズアドバイス 竹島 信宏／監修 新興医学出版社 2014.1 21cm 10,131p	がん研有明病院での日頃の診療経験を元に、子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がんの診断・検査、治療、再発などの疑問にQ&A方式でやさしく回答。	一般
139	乳癌診療ポケットガイド 中村 清吾／監修 医学書院 2014.7 19cm 13,249p	乳癌診療に携わるあらゆる職種の人に向けて、臨床に役立つ知識・新しい知見をコンパクトにまとめたガイド。	専門
140	40歳からの女性の医学 骨盤臓器脱 高橋 悟／著 岩波書店 2008.12 19cm 8,97,10p	患者数が多いのに知名度が低いため、我慢したり一人で悩んでしまうことの多い「骨盤臓器脱」。その原因や症状、体への負担が少ない最新の治療法、予防法などを詳しく解説。	一般
141	40歳からの女性の医学 卵巣がん、子宮体がん 竹田 省／著 岩波書店 2014.1 19cm 9,127,4p	婦人科がんのうち、近年増加している卵巣がんと子宮体がんとは、どんな病気なのか。臓器の仕組み、病気の症状や検査方法、治療の種類、治療後のケア、再発・転移したときの対処などを解説。	一般
142	治療を始める前に読む乳がんの本 イカロス出版 2014.2 21cm 205p	乳がんの基礎知識をはじめ、治療を始める前に知っておきたい情報、診断と初期治療の流れ、各種治療法、治療中の心得や再発・転移の薬物療法、治療費用などについて説明する。	一般
143	はじめての乳がん 土屋 美樹／著 亜紀書房 2014.10 19cm 215p	どんな病院に行けばいい? 治療費はどのくらい必要? 治療に専念するために仕事は辞めたほうがいい? 「自分にとって納得のいく治療を受けるコツ」を乳がん闘病経験者が、働く女子の目線で生々しく綴る。	一般
144	乳がん検診従事者のための乳房超音波検査トレーニング 東野 英利子／著 金原出版 2014.11 30cm 182p	乳がん検診における超音波検査法、正常構造および正常のパリエーション、検診で遭遇する主な乳腺疾患などについて、自覚症状の無い症例の検診写真を中心に掲載し、解説する。	専門

平成26年度新たに整備されたがん関連図書

	書誌情報	内容紹介	利用 対象
145	乳がんが診断されたらすぐに読みたい本 豊増さくらと乳がん患者会bambi*組／著 健康ジャーナル社 2014.3 21cm 367p	抗がん剤、リハビリ、髪の毛、お金、仕事、子育て…。突然の病気にとまどう患者やその家族に向けて、40歳の誕生日直後に乳がんが発覚した著者の乳がん体験談と、100人の体験記をまとめる。	一般
146	患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2014年版 日本乳癌学会／編 金原出版 2014.7 26cm 26,199p	乳がんの予防・検診・治療・検査・療養等に関する重要な項目を、Q&A方式で分かりやすく解説する。	一般
147	乳がん患者の妊娠出産と生殖医療に関する診療の手引き 2014年版 「乳癌患者における妊孕性保持支援のための治療選択および患者支援プログラム・関係ガイドラインの開発」班／編集 金原出版 2014.9 26cm 11,125p	挙児希望を有する乳がん患者に対するがん治療・生殖医療、妊娠前のスクリーニング、妊娠中・出産後の管理などについて解説する。	専門
148	「乳がん」といわれたら 2014ー2015 (日経BPムック) 日経BP社 2014.6 28cm 178p	「疑いあり」から「再発」まで、乳がん治療のすべてを紹介。治療の流れと全体像が分かるオリジナルフローチャート、「乳がんリハビリ」のポイント、2014年版全国乳がん診療実態調査などを掲載する。	一般
149	乳がんから自分をまもるために、知っておきたいこと。 島田 菜穂子／監修 日本医療企画 2014.10 21cm 127p	乳がんは、知ること、備えること、そして自ら行動することで闘える病。そのために必要な情報を、わかりやすく解説する。乳がんのタイプ別安心な暮らしのためのシミュレーション付き。	一般
150	乳房超音波診断ガイドライン 日本乳腺甲状腺超音波医学会／編集 南江堂 2014.5 30cm 20,167p	正確な診断能力を持ち、現在、乳癌の診断に欠くことのできない検査方法となっている乳房超音波検査。その用語、検査方法、判定方法を標準化したガイドライン。	専門
151	マンモグラフィガイドライン 日本医学放射線学会／編集 医学書院 2014.4 30cm 9,98p	マンモグラフィシステムから、撮影法、読影の基本、画像評価、精度保証までを解説した、乳がん検診のためのガイドライン。ソフトコピーによる画像評価基準を盛り込んだ第3版増補版。	専門
152	乳癌は予防できるか 野村 雍夫／著 東京図書出版 2014.6 22cm 159p	わが国で、なぜ急速に乳癌が増加しているのか？ 乳癌の発癌と予防の研究の現状を述べ、どの程度予防できるかを解析。乳癌にならない30の方法も紹介する。	一般
153	婦人科がん取扱い規約抜粋 日本産科婦人科学会／編 金原出版 2013.2 16cm 17,361p	子宮頸癌、子宮体癌、卵巣腫瘍、絨毛性疾患の各取扱い規約から日常診療に役立つ項目を抽出してポケットサイズにまとめる。臨床の現場で頻用される各種資料も巻末に掲載。	専門
154	婦人科癌診療Q&A 鈴木 直／編著 中外医学社 2014.4 26cm 5,339p	子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌といった婦人科癌診療の現場で遭遇する、ガイドラインだけでは対応できない疑問・難問にエキスパートが明瞭回答。図表も多数収録。	専門
155	がんに不安を感じたら読む本 (光文社新書) 本荘 そのこ／著 光文社 2014.3 18cm 198p	元乳がん患者の著者が、がん治療における落とし穴、いざというときのための「選択力」の身に付け方、全国の名医の活動、がん治療の現場などを紹介。	一般
156	乳房オンコプラスティック・サージャリー 矢野 健二／編集 克誠堂出版 2014.4 26cm 5,222p	厚生省主導で開催される乳房再建用インプラントとエキスパンダーの使用法に関する講習会の講習内容を網羅し、乳房オンコプラスティック・サージャリーに関する基本的手技を解説する。	専門
157	口腔の緩和医療・緩和ケア 杉原 一正／監修 永末書店 2013.10 26cm 10,220p	がん患者と非がん疾患患者の口腔の緩和医療・ケアについて、主に歯科医師・医師が行う診断・処置・投薬などの医療面と、歯科衛生士や看護師などが行うケア面に分けて解説する。	専門
158	聖路加病院で働くということ 早瀬 圭一／著 岩波書店 2014.10 20cm 7,214p	小児がん治療一筋・40年の医師、訪問看護の先駆者、後進育成に専念する学長、地下鉄サリン事件対応で陣頭指揮を執った救急部長。日本一を目指す聖路加国際病院の姿を生き生きと描き出す。	一般
159	<実録>一円も使わない終活 村上 夏樹／著 飛鳥新社 2014.11 19cm 181p	がんの治療費と葬儀はオール0円で済む!? 妻の視点で綴った、夫のがん発病から死に至るまでの闘病記などを通して、法律を使って「治療費不安」を解消する方法や、シンプル葬儀として注目を浴びている直葬について紹介する。	一般
160	薬害イレッサ訴訟闘いの記録と教訓 薬害イレッサ訴訟原告弁護団／編 日本評論社 2014.8 21cm 8,237p	肺がん用抗がん剤イレッサによる多数の副作用死はなぜ起きたのか。抗がん剤承認にかかわる利益相反行為や広告宣伝の問題点など、薬害イレッサ訴訟の記録と教訓を記す。訴訟書面等のデータを収めたCD-ROM付き。	一般
161	長生きするのはどっち? 秋津 壽男／著 あさ出版 2014.10 19cm 223p	「早期発見・治療」と「放置」、がん治療の正解はどっち? 「炭水化物抜き」と「1日1食」、寝たきりになるのはどっち? 健康に関する35の質問を通して、実は誤っている危険な情報、本当に正しい健康知識を紹介する。	一般
162	マンガでわかる自然治癒力のしくみ (サイエンス・アイ新書 医学) 生田 哲／著 SBクリエイティブ 2014.9 18cm 205p	誰もがもつすばらしい力を、いまこそ使おう! 人間に備わっている自然治癒力のしくみとそれを支える脳・免疫系・内分泌系のはたらき、そして自然治癒力を高める具体的な方法を、マンガでわかりやすく解説する。	一般

平成26年度新たに整備されたがん関連図書

	書誌情報	内容紹介	利用 対象
163	生活習慣病と健康管理 斎藤 征夫／著 診断と治療社 2014.10 21cm 8,180p	日本の代表的な生活習慣病である、がん・心疾患・糖尿病などの疾病を、社会状況を踏まえて説明するとともに、食生活をはじめとする日常生活習慣と疾病との関連を論じる。	専門
164	がんになる29の添加物を食べずに生きる方法 渡辺 雄二／著 宝島社 2014.4 19cm 251p	トクホの飲み物に、危険な添加物! カビないパンに、有害な化学物質! 危険食品を30年研究し続けた科学ジャーナリストが、がんになる確率を高める添加物と、それらが使われている市販の食品を具体的に紹介する。	一般
165	くすりの事典 2015年版 小林 輝明／監修 成美堂出版 2014.6 22cm 1207p	国内で医療用として承認・使用されている内服薬・外用薬・漢方薬・抗がん剤・インスリン注射液、全6400品目の名前や働き、使用上の注意、副作用などの最新情報を収録。	一般
166	自宅で親を看取る 小池 百合子／著 幻冬舎 2014.9 19cm 187p	とことん寄り添う。そう覚悟を決めて臨んだ最期の日々。悔いはほぼ、ない。88歳の母親を、自宅で看取るまでのかけがえのない時間を綴る。ケア・マネージャーとの連携、公的支援を賢く使う方法なども紹介する。	一般
167	虹を生むひと サトミ セキ／著 幻冬舎ルネッサンス 2014.8 20cm 223p	大切な人たちの死、がん宣告、キラウエア火山やグラスストンベリーで見た不思議な虹。喪失と絶望から、人はいかにして救われるのか…。がんの宣告を受けた後の5年間に書きためたものをまとめる。	一般
168	To Be Continued 曾我 彩加／著 文芸社 2014.9 19cm 196p	突然の胃癌告知が人生の意味を変えた。インストラクターとして活躍する著者が、癌を乗り越え、リハビリを開始し、フラダンスと出会うまでを綴る。	一般
169	がんが消えた生活 高木 達雄／著 幻冬舎ルネッサンス 2014.2 19cm 171p	精密検査での食道がん発覚後、摘出手術を行うも、肺などに転移。それでも諦めず、体にいいことを続けてきた結果、自分自身の力で「がんを消すこと」に成功! がん発覚から、がんが消えるまでを綴る。	一般
170	恵恵 日中の海を越えた愛 恵恵／著 文藝春秋 2014.6 20cm 317p	結婚を誓い合った健太と恵恵。だが彼女は乳ガンに…。日中がもっとも厳しかった7年間、困難を乗り越え、懸命に生きた2人と日中ふたつの家族、その真実の物語。	一般

出典:『週刊新刊全点案内』(図書館流通センター発行)

がん情報サロンボード

2015/11/10

がん情報サロン 富田 明 人

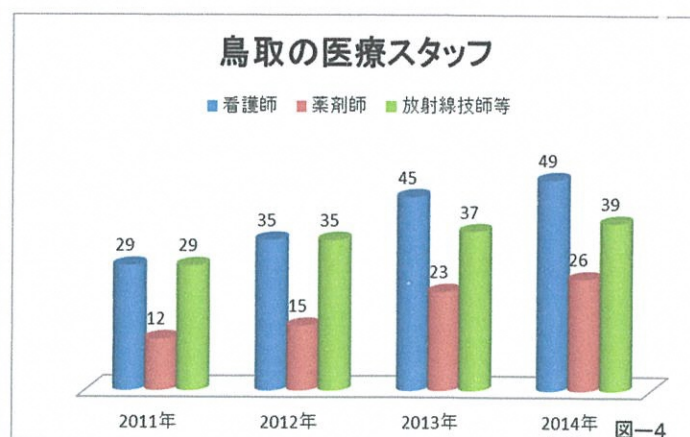
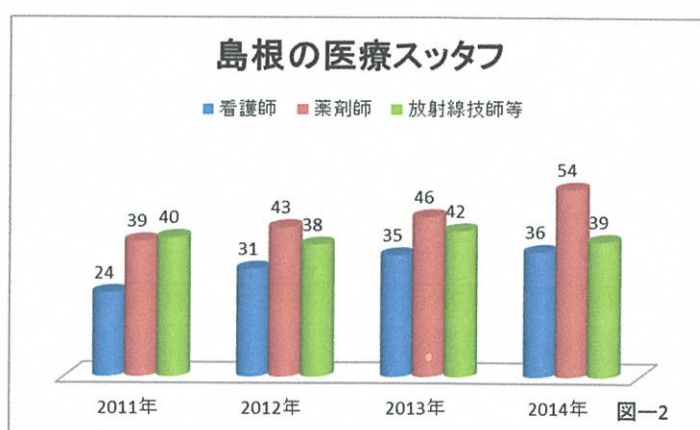
2,014 /山陰のがん診療連携拠点病院の現況報告

国立がん研究センターは毎年全国のがん診療連携拠点病院の病院情報を収集し公表している。今年も平成 26 年 9 月 1 日時点での病院情報をホームページに掲載した。

高齢化の進展に伴いがん患者も増加しているが、医療の水準も急速に向上している。医療環境は向上しているが、一方高度な医療は患者にとって高額な負担をしいることとなり経済的負担が社会的な課題となっている。

健康で健やかな高齢社会を望みたい。不幸にしてがん罹患した時、現在治療中の人の治療の参考として島根、鳥取のがん診療連携拠点病院の病院情報の一部を抜粋、編集してお届けする。

医療に携わる医療スタッフは2014年には島根県では1,121人、鳥取県は1,036人である。その内 2014 年の専門医数は島根 931 人、鳥取 878 人で時系列推移は図 1～図 4 で示した。



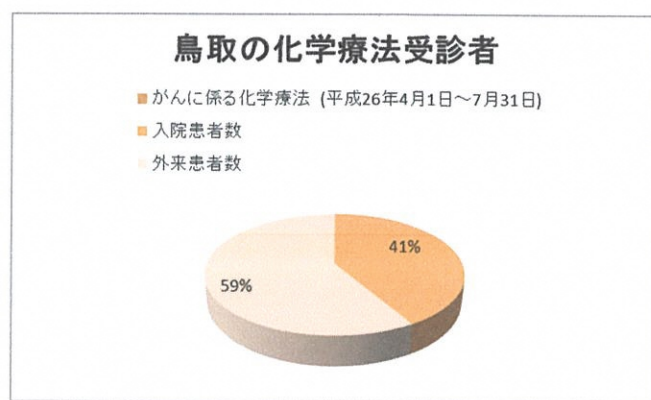
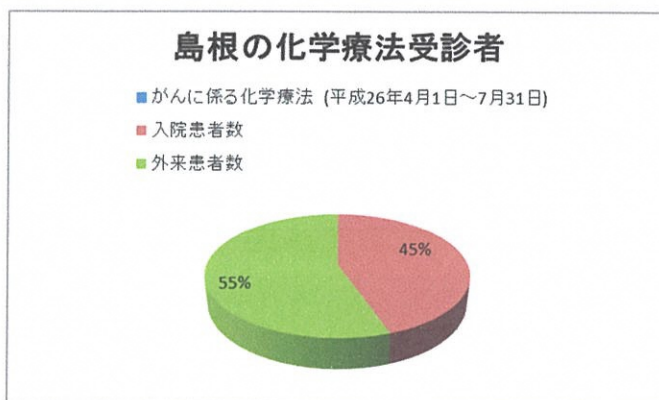
平成 25 年の年間新入院患者数は、島根 49,623 人、鳥取 41,454 人で年間新入院患者に占めるがん患者の割合は島根 11,680 人（23.5%）、鳥取 10,722 人（25.9%）であった。

治療方法はがんの種類、ステージ度により異なる。悪性腫瘍手術総数（平成 26 年 4 月 1 日～7 月 31 日）は島根 1,419 件、鳥取 1,048 件であり内視鏡手術、腹腔鏡下手術が主流となっている。

放射線治療は近年新しい機材の導入も進み定位照射や強度変調放射線治療（IMRT）の活用が進んでいる。

平成25年放射線治療者			
	島根	鳥取	摘要
体外照射総数	1,084	845	
定位照射(脳)	13	0	
定位照射(体幹部)	4	6	
強度変調放射線治療(IMRT)	60	32	
小線源治療	10	54	

化学療法を受ける患者も増加している。平成 25 年 4 月 1 日～7 月 31 日の期間に化学療法を受けたのべ患者数は島根 3,381 人、鳥取 1,965 人であった。両県とも外来患者が過半数を占めている特色がある。



なお、両県の専門医の分布を把握できるように 2014 年をキーとして上位 30 位までソートし表 1 及び 2 で示した。

この報告書は山陰両県のがん診療連携病院の現況報告の資料に基づくもので地域全体の情報を反映していないことを留意していただきたい。

医師等の専門性に関する資格名に該当する人数について

	島根県に多い専門医	島根大学医学部付属病院	島根県立中央病院	松江市立病院	松江赤十字病院	浜田医療センター	2014 合計	2013年	2012年	2011年
1	(社)日本外科学会 外科専門医	22	16	10	14	8	70	65	64	61
2	がん治療認定医機構 がん治療認定医	34	11	12	9	0	66	61	70	49
3	(社)日本内科学会 総合内科専門医	18	19	3	4	3	47	53	37	37
4	(財)日本消化器病学会 消化器病専門医	24	8	9	3	1	45	46	45	39
5	(社)日本小児科学会 小児科専門医	18	6	4	6	1	35	33	27	28
6	(社)日本麻酔科学会 麻酔科専門医	18	5	4	6	1	34	35	34	27
7	(社)日本産科婦人科学会 産婦人科専門医	10	9	6	4	3	32	34	30	30
8	(社)日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医	17	3	6	3	3	32	34	34	35
9	(社)日本整形外科学会 整形外科専門医	13	6	4	5	1	29	26	23	28
10	がん治療認定医機構 暫定教育医	15	7	6	1	0	29	29	30	28
11	NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 検診マンモグラフィ読影認定医師B評価	10	5	9	4	0	28	30	34	31
12	(社)日本消化器外科学会 消化器外科専門医	8	4	5	6	2	25	24	20	21
13	(社)日本循環器学会 循環器専門医	7	8	2	5	1	23	24	23	29
14	(社)日本医学放射線学会 放射線診断専門医	9	5	3	3	1	21	21	14	18
15	(社)日本肝臓学会 肝臓専門医	13	2	3	3	0	21	22	19	18
16	(社)日本神経学会 神経内科専門医	9	3	2	4	0	18	17	15	17
17	(社)日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医	9	3	2	2	1	17	17	17	19
18	(社)日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医	3	5	2	4	3	17	17	17	17
19	(社)日本糖尿病学会 糖尿病専門医	6	2	2	4	2	16	15	12	12
20	(社)日本病理学会 病理専門医/指導医	9	2	1	2	1	15	15	10	9
21	(社)日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医	8	2	1	3	1	15	13	13	11
22	(財)日本眼科学会 眼科専門医	6	2	2	3	1	14	13	15	16
23	(社)日本超音波医学会 超音波専門医	8	1	1	4	0	14	14	11	10
24	(社)日本臨床細胞学会 細胞診専門医	1	3	5	4	1	14	13	9	9
25	NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 検診マンモグラフィ読影認定医師A評価	8	3	0	3	0	14	15	17	13
26	日本精神神経学会 精神科専門医	8	3	0	2	0	13	13	11	12
27	(社)日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専門医	6	2	1	3	0	12	12	14	15
28	(社)日本血液学会 血液専門医	8	2	1	1	0	12	13	11	11
29	(社)日本皮膚科学会 皮膚科専門医	5	4	1	0	1	11	10	9	11
30	(社)日本呼吸器学会 呼吸器専門医	5	1	2	1	1	10	10	9	7

資料 国立がんセンター(表-1)

医師等の専門性に関する資格名に該当する人数等について

	鳥取県に多い専門医	鳥取大学 医学部付 属病院	米子医療 センター	鳥取県立 中央病院	鳥取市立 病院	鳥取県立 厚生病院	2014	2013年	2012年	2011年
1	(社)日本外科学会 外科専門医	34	5	9	7	6	61	56	56	48
2	(社)日本小児科学会 小児科専門医	34	3	7	2	4	50	45	41	38
3	(社)日本内科学会 総合内科専門医	24	2	5	6	1	38	36	35	65
4	(財)日本消化器病学会 消化器病専門医	22	5	4	2	3	36	35	33	25
5	(社)日本産科婦人科学会 産婦人科専門 医	16	0	6	3	3	28	28	28	24
6	(社)日本整形外科学会 整形外科専門医	11	4	5	3	4	27	28	27	26
7	(社)日本循環器学会 循環器専門医	15	1	3	2	4	25	24	22	16
8	(社)日本麻酔科学会 麻酔科専門医	14	2	4	3	1	24	25	26	26
9	(社)日本臨床細胞学会 細胞診専門医	16	1	4	1	2	24	18	15	12
10	(社)日本医学放射線学会 放射線診断専 門医	16	1	2	2	2	23	21	25	8
11	(社)日本消化器外科学会 消化器外科専 門医	10	4	3	2	2	21	27	22	19
12	(財)日本眼科学会 眼科専門医	16	0	2	2	0	20	18	22	14
13	(社)日本呼吸器学会 呼吸器専門医	15	1	3	1	0	20	24	23	19
14	(社)日本肝臓学会 肝臓専門医	12	2	3	1	1	19	19	18	16
15	(社)日本病理学会 病理専門医/指導医	10	3	1	2	2	18	11	5	3
16	(社)日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専 門医	13	0	2	0	1	16	16	19	15
17	(社)日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医	9	2	2	3	0	16	14	15	16
18	(社)日本脳神経外科学会 脳神経外科専 門医	7	0	2	2	2	13	16	14	14
19	(社)日本糖尿病学会 糖尿病専門医	4	1	3	3	1	12	13	7	5
20	(社)日本内分泌学会 内分泌代謝科専門 医	8	0	0	1	0	9	9	3	7
21	(社)日本血液学会 血液専門医	4	0	4	0	0	8	7	7	8
22	(社)日本腎臓学会 腎臓専門医	6	0	1	1	0	8	6	4	6
23	(社)日本皮膚科学会 皮膚科専門医	6	0	0	1	0	7	8	7	8
24	(社)日本救急医学会 救急科専門医	3	0	2	0	1	6	5	6	5
25	(社)日本医学放射線学会 放射線治療専 門医	2	0	2	1	0	5	5	5	20
26	(社)日本超音波医学会 超音波専門医	3	0	1	1	0	5	4	5	4
27	(社)日本形成外科学会 形成外科専門医	3	0	1	0	0	4	3	3	3
28	(社)日本リハビリテーション医学会 リハ ビリテーション科専門医	3	0	1	0	0	4	4	5	5
29	(社)日本透析医学会 透析専門医	2	0	0	0	0	2	2	3	3
30	(社)日本感染症学会 感染症専門医	1	0	0	0	0	1	1	2	2

資料 国立がん研究センター(表-2)

(富田)

2014/医師等の専門性に関する資格名に該当する人数について

	島根大学医学部 付属病院	島根県立中央 病院	松江市立病院	松江赤十字病 院	浜田医療セン ター	2014 合計	2013年	2012年	2011年
(社) 日本整形外科学会 整形外科専門医	13	6	4	5	1	29	26	23	28
(社) 日本皮膚科学会 皮膚科専門医	5	4	1	0	1	11	10	9	11
(社) 日本麻酔科学会 麻酔科専門医	18	5	4	6	1	34	35	34	27
(社) 日本医学放射線学会 放射線診断専門医	9	5	3	3	1	21	21	14	18
(社) 日本医学放射線学会 放射線治療専門医	2	2	2	0	0	6	6	4	6
(財) 日本眼科学会 眼科専門医	6	2	2	3	1	14	13	15	16
(社) 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医	10	9	6	4	3	32	34	30	30
(社) 日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専門医	6	2	1	3	0	12	12	14	15
(社) 日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医	9	3	2	2	1	17	17	17	19
(社) 日本形成外科学会 形成外科専門医	1	1	1	2	0	5	6	6	6
(社) 日本病理学会 病理専門医/指導医	9	2	1	2	1	15	15	10	9
(社) 日本内科学会 総合内科専門医	18	19	3	4	3	47	53	37	37
(社) 日本外科学会 外科専門医	22	16	10	14	8	70	65	64	61
(社) 日本糖尿病学会 糖尿病専門医	6	2	2	4	2	16	15	12	12
(社) 日本肝臓学会 肝臓専門医	13	2	3	3	0	21	22	19	18
(社) 日本感染症学会 感染症専門医	1	1	1	1	0	4	4	3	3
(社) 日本救急医学会 救急科専門医	1	5	0	2	1	9	9	11	12
(社) 日本血液学会 血液専門医	8	2	1	1	0	12	13	11	11
(社) 日本呼吸器学会 呼吸器専門医	5	1	2	1	1	10	10	9	7
(社) 日本循環器学会 循環器専門医	7	8	2	5	1	23	24	23	29
(財) 日本消化器病学会 消化器病専門医	24	8	9	3	1	45	46	45	39
(社) 日本腎臓学会 腎臓専門医	4	2	0	2	0	8	5	4	4
(社) 日本小児科学会 小児科専門医	18	6	4	6	1	35	33	27	28
(社) 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医	8	2	1	3	1	15	13	13	11
(社) 日本消化器外科学会 消化器外科専門医	8	4	5	6	2	25	24	20	21
(社) 日本超音波医学会 超音波専門医	8	1	1	4	0	14	14	11	10
(社) 日本臨床細胞学会 細胞診専門医	1	3	5	4	1	14	13	9	9
(社) 日本透析医学会 透析専門医	5	1	1	1	0	8	7	4	5
(社) 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医	3	5	2	4	3	17	17	17	17

	島根大学医学部 付属病院	島根県立中央 病院	松江市立病院	松江赤十字病 院	浜田医療セン ター	2014 合計	2013年	2012年	2011年
(社)日本リハビリテーション医学会 リハ ビリテーション科専門医	3	1	2	2	0	8	8	7	7
(社)日本老年医学会 老年病専門医	4	1	0	0	0	5	5	4	5
心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外 科専門医	2	4	0	2	1	9	9	9	8
呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科 専門医	1	2	0	1	0	4	4	4	4
(社)日本消化器内視鏡学会 消化器内視 鏡専門医	17	3	6	3	3	32	34	34	35
特定非営利活動法人 日本小児外科学会 小児外科専門医	1	0	0	0	0	1	1	2	2
(社)日本神経学会 神経内科専門医	9	3	2	4	0	18	17	15	17
(社)日本リウマチ学会 リウマチ専門医	5	2	0	1	0	8	6	7	8
(社)日本乳癌学会 乳腺専門医	2	1	1	3	1	8	7	5	5
(社)日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医	5	1	0	0	0	6	5	5	3
(社)日本東洋医学会 漢方専門医	1	1	0	0	0	2	2	1	3
特定非営利活動法人 日本レーザー医学会 レーザー専門医	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定非営利活動法人 日本呼吸器内視鏡学 会 気管支鏡専門医	5	2	2	0	0	9	9	10	7
(社)日本アレルギー学会 アレルギー専門 医	5	0	1	1	0	7	7	6	5
(社)日本核医学会 核医学専門医	2	0	2	2	0	6	7	5	5
特定非営利活動法人 日本気管食道科学会 気管食道科専門医	1	0	0	0	0	1	1	1	1
(社)日本大腸肛門病学会 大腸肛門病專 門医	0	0	1	0	0	1	1	1	1
特定非営利活動法人 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医	2	2	1	0	0	5	5	4	4
(社)日本ペインクリニック学会 ペインク リニック専門医	6	0	1	0	1	8	9	8	7
(社)日本熱傷学会 熱傷専門医	0	0	0	1	0	1	0	0	0
特定非営利活動法人 日本脳神経血管内治 療学会 脳血管内治療専門医	2	1	1	1	0	5	3	4	4
特定非営利活動法人 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医	5	0	0	0	0	5	5	5	3
一般社団法人 日本周産期・新生児医学会 周産期(新生児)専門医	1	1	0	1	0	3	3	1	1
(社)日本生殖医学会 生殖医療専門医	2	2	0	0	0	4	4	4	3
一般社団法人 日本小児神経学会 小児神 経専門医	1	0	0	1	0	2	2	2	2
特定非営利活動法人 日本心療内科学会 心療内科専門医	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(社)日本総合病院精神医学会 一般病院 連携精神医学専門医	3	1	1	0	0	5	3	2	0
日本精神神経学会 精神科専門医	8	3	0	2	0	13	13	11	12
日本緩和医療学会 専門医	0	0	1	0	0	1	1	1	1
日本緩和医療学会 暫定指導医	2	0	0	0	0	2	2	2	2
がん治療認定医機構 がん治療認定医	34	11	12	9	0	66	61	70	49

	島根大学医学部 附属病院	島根県立中央 病院	松江市立病院	松江赤十字病 院	浜田医療セン ター	2014 合計	2013年	2012年	2011年
がん治療認定医機構 暫定教育医	15	7	6	1	0	29	29	30	28
(社)日本泌尿器科学会/日本泌尿器内視鏡 学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医	2	0	0	1	0	3	3	5	5
日本内視鏡外科学会 産婦人科領域 技術 認定所得者	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本内視鏡外科学会 呼吸器外科領域 技 術認定所得者	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本内視鏡外科学会 消化器・一般外科領 域 技術認定所得者	5	0	0	0	0	5	5	4	5
日本内視鏡外科学会 泌尿器科領域 技術 認定所得者	4	0	0	1	0	5	3	2	2
日本IVR学会 IVR専門医	4	0	0	0	0	4	5	3	4
一般社団法人 日本核医学会 PET核医学 認定医	3	2	1	3	0	9	10	9	8
NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員 会 検診マンモグラフィ読影認定医師A評価	8	3	0	3	0	14	15	17	13
NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員 会 検診マンモグラフィ読影認定医師B評価	10	5	9	4	0	28	30	34	31
歯科医師									
(社)日本口腔外科学会 口腔外科専門医	2	1	2	1	0	6	5	5	5
(社)日本病理学会 口腔病理専門医	1	0	0	0	0	1	1	1	1
看護師									
(社)日本看護協会 がん看護専門看護師	1	0	0	0	0	1	1	2	0
(社)日本看護協会 がん化学療法看護認 定看護師	1	2	2	2	2	9	7	5	3
(社)日本看護協会 がん性疼痛看護認定 看護師	0	1	0	1	1	3	3	2	2
(社)日本看護協会 乳がん看護認定看護 師	0	1	0	1	0	2	2	2	2
(社)日本看護協会 緩和ケア認定看護師	2	1	1	1	2	7	9	9	8
(社)日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看 護師	1	2	1	1	1	6	6	6	6
(社)日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認 定看護師	0	1	0	0	1	2	2	2	1
(社)日本看護協会 手術看護認定看護師	1	1	0	0	1	3	3	3	2
(社)日本看護協会 がん放射線療法看護 認定看護師	0	1	0	0	0	1	0	0	
日本IVR学会認定看護師	1	1	0	0	0	2	2	0	0
その他専門的技術・知識を有する医療従 事者									
日本医療薬学会 がん専門薬剤師	3	0	0	0	0	3	2	1	1
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤 師	4	2	2	1	1	10	9	8	8

	島根大学医学部附属病院	島根県立中央病院	松江市立病院	松江赤十字病院	浜田医療センター	2014 合計	2013年	2012年	2011年
日本病院薬剤師会 がん専門薬剤師	1	0	0	0	0	1	1	1	1
日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師	2	0	0	0	0	2	0		
日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	4	21	4	3	6	38	34	33	29
日本臨床細胞学会 細胞検査士	8	5	4	4	2	23	20	18	16
NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	1	8	4	5	4	22	25	22	25
日本医学放射線学会 医学物理士	2	0	1	0	1	4	3	3	3
放射線治療品質管理機構 放射線治療品質管理士	2	1	3	0	0	6	6	5	6
日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師	1	1	3	1	1	7	8	8	6
四病院団体協議会／医療研修推進財団 診療情報管理士	8	3		18	2	31	32	33	21
	474	241	156	184	66	1,121	1,097	1,018	965

2013年 計	472	238	150	172	67
---------	-----	-----	-----	-----	----

2014/ 患者数・診療件数の状況

1)患者数等		島根大学 医学部付 属病院	島根県立 中央病院	松江市 立病院	松江赤十 字病院	浜田医 療セン ター	合計
年間新入院患者数（平成25年1月1日～12月31日）※1		10,341	12,814	8,080	11,605	6,783	49,623
	年間新入院がん患者数（平成25年1月1日～12月31日）※	3,263	2,990	1,692	2,488	1,247	11,680
	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合	31.6%	23.3%	20.9%	21.4%	18.4%	23.5%
年間外来がん患者延数（平成25年1月1日～12月31日）		79,337	46,615	21,290	16,549	12,125	175,916
年間院内死亡がん患者数（平成25年1月1日～12月31日）		183	216	200	206	199	1,004
新入院患者数(原則、平成26年4月1日～7月31日までの新入院患者。) ※1		2,996	4,343	2,747	4,253	2,328	16,667
	新入院がん患者数 ※2	792	779	454	881	323	3,229
	（入院患者数に占めるがん患者の割合）	26.4%	17.9%	16.5%	20.7%	13.9%	19.4%
	うち肺がん患者数（ICD-10コード C34\$）※	115	116	52	147	33	463
	うち胃がん患者数（ICD-10コード C16\$）	75	221	73	120	55	544
	うち大腸がん(直腸がんを含む)患者数（ICD-10コード C18\$, C19, C20）	73	177	59	117	45	471
	うち肝臓がん患者数（ICD-10コード C22\$）	69	99	41	54	34	297
	うち乳がん患者数（ICD-10コード C50\$）	30	109	34	73	14	260
2)麻酔及び手術等の状況(平成26年4月1日～7月31日)							
全身麻酔件数総数		867	732	453	175	368	2,595
ア	悪性腫瘍の手術件数の総数	481	290	149	367	132	1,419
イ	肺がんの手術件数						
	開胸手術 K511\$, K514\$, K518\$	1	2	6	9	11	29
	胸腔鏡下手術 K514-2\$	31	11	1	15	11	69
ウ	胃がん手術						
	開腹手術 K654-2、K6552、K655-42、K6572	1	23	14	9	5	52
	腹腔鏡下手術 K654-3、K655-22、K657-22	23	9	0	10	4	46
	内視鏡手術 粘膜切除術(EMR) K6531	0	0	0	3	1	4
	内視鏡手術 粘膜下層剥離術(ESD) K6532	21	23	12	22	21	99
エ	大腸がん手術（C18\$, C19, C20）の手術件数						
	開腹手術 K7193、K739\$, K740\$	4	35	11	9	18	77
	腹腔鏡下手術 K719-3、K740-2\$	12	14	14	13	16	69
	内視鏡手術 K721\$, K721-2\$, K739-2	10	40	33	28	16	127
オ	肝臓がん(C22\$)の手術件数						
	開腹手術 K695\$	5	3	1	1	1	11
	腹腔鏡下手術 K695-2	9	0	0	0	0	9
	マイクロ波凝固法 K697-2	0	0	0	0	0	0
	ラジオ波焼灼療法 K697-3	19	0	5	7	7	38
カ	乳がん（C50\$）の手術件数						
	手術 K476\$	15	27	6	38	9	95
	乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2	0	0	0	0	0	0
	乳腺腫瘍摘出術(生検) K474\$	1	3	0	0	1	5
	乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術 K474-3	0	0	0	0	0	0
	乳房再建術(乳房切除後) 二期的に行うもの	0	0	0	0	0	0
キ	転移性肺がん（C780）の手術件数						
	開胸手術 K511\$, K514\$, K518	0	0	1	0	0	1

1)患者数等		島根大学 医学部付 属病院	島根県立 中央病院	松江市 立病院	松江赤十 字病院	浜田医 療セン ター	合計
ク	胸腔鏡下手術 K514-2\$, K513	7	4	0	3	11	25
	転移性肝がん (C787)の手術件数						0
	開腹手術 K695\$	1	2	0	1	0	4
	腹腔鏡下手術 K695-2	5	0	0	0	0	5
3)放射線治療							
※以下、放射線治療件数に関する項目は、下記を参考に、必ず放射線治療責任医師の確認を取って記入すること。							
ア-1	すべてのがん対象したのべ患者数(平成25年1月1日～12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)						
	例:平成25年3月に新患として放射線治療を受け、同10月に転移で再度放射線治療を受けた場合は2名と数える。						
	体外照射		318	279	129	214	1,084
	そのうち特殊なもの						
		定位照射(脳)	0	13	0	0	13
		定位照射(体幹部)	3	1	0	0	4
		強度変調放射線治療(IMRT)	33	13	14	0	60
ア-2	・小線源治療		10	0	0	0	10
	我が国に多いがんを対象したのべ患者数(平成26年4月1日～7月31日の間に放射線治療を開始した患者数)						
	例:平成25年4月に新患として放射線治療を受け、同7月に転移で再度放射線治療を受けた場合は2名と数える。						
	・入院						
		肺がん	17	10	1	13	49
		胃がん	0	0	1	0	2
		肝がん	6	0	0	0	6
		大腸がん	3	5	0	2	11
		乳がん	4	2	0	4	20
	・外来						
		肺がん	7	0	1	1	13
		胃がん	0	0	0	0	1
イ-1		肝がん	1	0	0	0	1
		大腸がん	1	1	3	0	6
		乳がん	12	8	10	19	51
	すべてのがんを対象とした照射回数(平成26年4月1日～7月31日ののべ照射)						
	・体外照射		2,542	2,820	3,126	2,004	11,743
	そのうち特殊なもの						
		定位照射(脳)	0	10	0	0	10
イ-2		定位照射(体幹部)	4	0	0	0	4
		強度変調放射線治療(IMRT)	351	252	1095	0	1,698
	・小線源治療		13	0	0	0	13
	我が国に多いがんを対象したのべ照射回数(平成26年4月1日～7月31日)						
	・入院						
		肺がん	237	165	84	307	951
		胃がん	6	0	36	0	55
		肝がん	76	0	0	0	76
		大腸がん	27	125	0	40	208
		乳がん	83	50	0	58	226
	・外来						
		肺がん	48	0	50	45	241
		胃がん	0	0	0	25	25
		肝がん	8	0	0	0	8

1)患者数等			島根大学 医学部付 属病院	島根県立 中央病院	松江市 立病院	松江赤十 字病院	浜田医 療セン ター	合計
		大腸がん	28	25	216	0	13	282
		乳がん	254	175	486	575	270	1,760
4)がんに係る化学療法（平成26年4月1日～7月31日）								
ア	のべ患者数	入院患者数	451	271	118	360	305	1,505
		外来患者数	229	419	153	504	571	1,876
イ	のべ処方件数	入院処方数	1,029	1,763	269	1280	416	4,757
		外来処方数	721	2,134	571	2028	802	6,256
ウ	のべ患者数(内服のみ)	入院	61	70	0	53	0	184
		外来	348	562	0	252	0	1,162
エ	のべ処方件数(内服のみ)	入院	517	1076	0	1,239	0	2,832
		外来	19,254	56,823	0	18,201	0	94,278
5)検査等の実績状況								
ア	病理診断の件数							
	病理診断(平成25年1月1日～12月31日)		5,659	5,887	2,941	6,067	2,414	22,968
	細胞診断(平成25年1月1日～12月31日)		6,287	6,525	3,992	1,838	2,961	21,603
	病理組織迅速組織顕微鏡検査(平成25年1月1日～12月31日)		628	296	134	267	101	1,426
	剖検(平成25年1月1日～12月31日)		33	19	9	6	2	69
	剖検率(平成25年1月1日～12月31日)		10%	3.9%	2%	1.3%	0.4%	
イ	画像診断等の件数（平成25年1月1日～12月31日）							
	上部消化管内視鏡検査 (食道及び胃・十二指腸ファイバースコープ。手術に伴って検査を行った患者数も計上すること)		3,633	4,855	5,463	3,493	2,139	19,583
	気管支内視鏡検査 (気管支ファイバースコープ。手術に伴って検査を行った患者数も計上すること)		177	169	71	113	626	1,156
	大腸内視鏡検査 (大腸及び直腸ファイバースコープ。手術に伴って検査を行った患者数も計上すること)		1,607	2,755	1,379	2,023	943	8,707
	血管連続撮影 (動脈注射、動脈造影カテーテル法、静脈造影カテーテル法、心臓カテーテル法により、心臓や血管内に造影剤を注入して連続撮影を行う検査。手術に伴って検査を行った患者数も計上すること)		1,025	1,395	759	1,681	620	5,480
	CT検査 E2001\$		25,841	23,001	16,253	24,342	14,265	103,702
	CTガイド下生検 D409からD413までに掲げるものをCT透視下に行った場合		43	0	24	0	60	127
	MRI検査 E202\$		10,142	5,718	4,085	8,659	5,818	34,422
	RI診断検査(シンチグラム) E100\$		2,417	1,356	276	510	253	4,812
	シングルフォトンエミッションCT(SPECT)検査 E101		2,070	411	378	456	140	3,455
	PET(陽電子断層撮影)検査 E101-2\$、E101-3\$		0	0	134	1,598	975	2,707

2014/医師等の専門性に関する資格名に該当する人数等について

	鳥取大学医学部付属病院	米子医療センター	鳥取県立中央病院	鳥取市立病院	鳥取県立厚生病院	2014 合計	2013年	2012年	2011年
(社)日本整形外科学会 整形外科専門医	11	4	5	3	4	27	28	27	26
(社)日本皮膚科学会 皮膚科専門医	6	0	0	1	0	7	8	7	8
(社)日本麻酔科学会 麻酔科専門医	14	2	4	3	1	24	25	26	26
(社)日本医学放射線学会 放射線診断専門医	16	1	2	2	2	23	21	25	8
(社)日本医学放射線学会 放射線治療専門医	2	0	2	1	0	5	5	5	20
(財)日本眼科学会 眼科専門医	16	0	2	2	0	20	18	22	14
(社)日本産科婦人科学会 産婦人科専門医	16	0	6	3	3	28	28	28	24
(社)日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専門医	13	0	2	0	1	16	16	19	15
(社)日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医	9	2	2	3	0	16	14	15	16
(社)日本形成外科学会 形成外科専門医	3	0	1	0	0	4	3	3	3
(社)日本病理学会 病理専門医/指導医	10	3	1	2	2	18	11	5	3
(社)日本内科学会 総合内科専門医	24	2	5	6	1	38	36	35	65
(社)日本外科学会 外科専門医	34	5	9	7	6	61	56	56	48
(社)日本糖尿病学会 糖尿病専門医	4	1	3	3	1	12	13	7	5
(社)日本肝臓学会 肝臓専門医	12	2	3	1	1	19	19	18	16
(社)日本感染症学会 感染症専門医	1	0	0	0	0	1	1	2	2
(社)日本救急医学会 救急科専門医	3	0	2	0	1	6	5	6	5
(社)日本血液学会 血液専門医	4	0	4	0	0	8	7	7	8
(社)日本呼吸器学会 呼吸器専門医	15	1	3	1	0	20	24	23	19
(社)日本循環器学会 循環器専門医	15	1	3	2	4	25	24	22	16
(財)日本消化器病学会 消化器病専門医	22	5	4	2	3	36	35	33	25
(社)日本腎臓学会 腎臓専門医	6	0	1	1	0	8	6	4	6
(社)日本小児科学会 小児科専門医	34	3	7	2	4	50	45	41	38
(社)日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医	8	0	0	1	0	9	9	3	7
(社)日本消化器外科学会 消化器外科専門医	10	4	3	2	2	21	27	22	19
(社)日本超音波医学会 超音波専門医	3	0	1	1	0	5	4	5	4
(社)日本臨床細胞学会 細胞診専門医	16	1	4	1	2	24	18	15	12
(社)日本透析医学会 透析専門医	2	0	0	0	0	2	2	3	3
(社)日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医	7	0	2	2	2	13	16	14	14

	鳥取大学医学部 付属病院	米子医療センター	鳥取県立中央病院	鳥取市立病院	鳥取県立厚生病院	2014 合計	2013年	2012年	2011年
(社)日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科専門医	3	0	1	0	0	4	4	5	5
(社)日本老年医学会 老年病専門医	1	0	0	0	0	1	1	1	1
心臓血管外科専門医認定機構 心臓 血管外科専門医	3	0	2	0	2	7	3	6	7
呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸 器外科専門医	5	1	1	0	1	8	4	8	5
(社)日本消化器内視鏡学会 消化器 内視鏡専門医	10	3	4	3	5	25	25	26	19
特定非営利活動法人 日本小児外科学 会 小児外科専門医	1	0	0	0	0	1	1	1	0
(社)日本神経学会 神経内科専門医	15	0	2	2	0	19	17	18	14
(社)日本リウマチ学会 リウマチ専門 医	4	1	1	2	1	9	10	8	6
(社)日本乳癌学会 乳腺専門医	2	0	0	1	0	3	4	3	5
(社)日本人類遺伝学会 臨床遺伝専 門医	3	0	0	0	0	3	4	3	
(社)日本東洋医学会 漢方専門医	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定非営利活動法人 日本レーザー医 学会 レーザー専門医	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定非営利活動法人 日本呼吸器内視 鏡学会 気管支鏡専門医	3	0	1	0	0	4	5	3	3
(社)日本アレルギー学会 アレルギー 専門医	4	1	1	0	0	6	8	10	5
(社)日本核医学会 核医学専門医	7	0	2	1	0	10	11	11	11
特定非営利活動法人 日本気管食道科 学会 気管食道科専門医	3	0	0	0	1	4	4	4	2
(社)日本大腸肛門病学会 大腸肛門 病専門医	1	0	1	0	0	2	2	2	1
特定非営利活動法人 日本婦人科腫瘍 学会 婦人科腫瘍専門医	4	0	2	0	0	6	6	5	4
(社)日本ペインクリニック学会 ペイン クリニック専門医	1	0	1	0	0	2	3	2	3
(社)日本熱傷学会 熱傷専門医	0	0	1	0	0	1	1	0	0
特定非営利活動法人 日本脳神経血 管内治療学会 脳血管内治療専門医	2	0	0	0	0	2	2	1	1
特定非営利活動法人 日本臨床腫瘍学 会 がん薬物療法専門医	5	2	3	1	0	11	3	7	7
特定非営利活動法人 日本臨床腫瘍学 会 がん薬物療法指導医	9					9			
一般社団法人 日本周産期・新生児医 学会 周産期(新生児)専門医	6	0	2	0	0	8	8	6	5
(社)日本生殖医学会 生殖医療専門 医	2	0	0	0	1	3	4	4	3
一般社団法人 日本小児神経学会 小 児神経専門医	3	0	0	0	0	3	2	3	3
特定非営利活動法人 日本心療内科 学会 心療内科専門医	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(社)日本総合病院精神医学会 一般 病院連携精神医学専門医	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本精神神経学会 精神専門医	5	0	1	1	1	8	3	8	6
日本緩和医療学会 緩和医療専門医	0	0	0	1	0	1	1	2	0

	鳥取大学医学部付属病院	米子医療センター	鳥取県立中央病院	鳥取市立病院	鳥取県立厚生病院	2014 合計	2013年	2012年	2011年
日本緩和医療学会 暫定指導医	2	2	0	1	0	5	5	4	0
がん治療認定医機構 がん治療認定医	39	5	15	11	5	75	61	80	51
がん治療認定医機構 暫定教育医	2	2	6	2	2	14	17	21	12
(社)日本泌尿器科学会/日本泌尿器内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医	6	0	1	2	0	9	7	6	6
日本内視鏡外科学会 産婦人科領域技術認定所得者	1	0	0	0	0	1	1	1	4
日本内視鏡外科学会 呼吸器外科領域 技術認定所得者	4	0	0	0	0	4	0	0	
日本内視鏡外科学会 消化器・一般外科領域 技術認定所得者	4	0	1	0	0	5	3	4	1
日本内視鏡外科学会 泌尿器科領域 技術認定所得者	3	0	1	2	0	6	7	3	4
日本IVR学会 IVR専門医	4	0	1	0	1	6	6	6	4
一般社団法人 日本核医学会 PET核医学認定医	7	0	3	1	1	12	12	12	10
NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 検診マンモグラフィ読影認定医師A	2	1	1	2	0	6	7	12	10
NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 検診マンモグラフィ読影認定医師B	20	1	6	0	2	29	28	12	11
歯科医師									
(社)日本口腔外科学会 口腔外科専門医	5	0	1	0	0	6	6	6	5
(社)日本病理学会 口腔病理専門医	6	0	0	0	0	6	6	0	0
看護師									
(社)日本看護協会 がん看護専門看護師	3	0	1	0	0	4	4	2	0
(社)日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師	3	2	1	0	2	8	7	6	6
(社)日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師	0	2	0	0	0	2	1	0	1
(社)日本看護協会 乳がん看護認定看護師	0	1	0	0	0	1	0	0	0
(社)日本看護協会 緩和ケア認定看護師	2	2	1	2	1	8	8	7	6
(社)日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師	2	1	1	1	1	6	6	4	5
(社)日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(社)日本看護協会 手術看護認定看護師	1	0	0	0	0	1	1	1	1
(社)日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師	0	1	0	0	1	2	1	1	
日本IVR学会認定看護師	6	0	11	0	0	17	17	14	10

	鳥取大学医学部付属病院	米子医療センター	鳥取県立中央病院	鳥取市立病院	鳥取県立厚生病院	2014 合計	2013年	2012年	2011年
3)その他専門的技術・知識を有する医療従事者									
日本医療薬学会 がん専門薬剤師	1	0	0	0	0	1	1	0	0
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	3	1	1	1	0	6	3	6	7
日本病院薬剤師会 がん専門薬剤師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師	0	0	1	1	0	2	2		
日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	5	0	7	2	3	17	17	9	5
日本臨床細胞学会 細胞検査士	4	2	0	3	1	10	13	16	11
NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	4	2	4	2	4	16	16	16	14
日本医学放射線学会 医学物理士	1	0	0	1	0	2	2	2	2
放射線治療品質管理機構 放射線治療品質管理士	3	1	3	1	2	10	9	7	5
日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師	4	1	3	1	2	11	10	10	8
四病院団体協議会／医療研修推進財団 診療情報管理士	6	3	3	7	3	22	17	16	13
合計	591	75	180	107	83	1036	961	929	803

2014/患者数・診療件数の状況

1)患者数等	鳥取大学 医学部付 属病院	米子医療 センター	鳥取県立 中央病院	鳥取市立 病院	鳥取県立 厚生病院	合計
年間新入院患者数（平成25年1月1日～12月31日）※1	14,989	4,204	9,297	6,859	6,105	41,454
年間新入院がん患者数（平成25年1月1日～12月31日）※2	3,932	1,353	1,998	1,890	1,549	10,722
年間新入院患者数に占めるがん患者の割合	26.2%	32.2%	21.5%	27.6%	25.4%	25.9%
年間外来がん患者延数（平成25年1月1日～12月31日）※3	77,341	48,661	30,029	37,279	18,921	212,231
年間院内死亡がん患者数（平成25年1月1日～12月31日）	97	159	158	183	128	725
新入院患者数（原則、平成26年4月1日～7月31日までの新入院患者。）※1	4,834	1,337	3,175	2,422	1,837	13,605
新入院がん患者数 ※2	1,358	386	654	423	476	3,297
（入院患者数に占めるがん患者の割合）	28.1%	28.9%	20.6%	17.5%	25.9%	24.2%
うち肺がん患者数（ICD-10コード C34\$）※	262	65	106	63	102	598
うち胃がん患者数（ICD-10コード C16\$）	73	39	54	64	85	315
うち大腸がん（直腸がんを含む）患者数（ICD-10コード C18\$, C19, C20）	44	66	96	40	118	364
うち肝臓がん患者数（ICD-10コード C22\$）	109	7	43	40	63	262
うち乳がん患者数（ICD-10コード C50\$）	34	67	14	20	30	165
※1 新入院患者数は、例えば、同一患者が当月中に2回入院した場合は2件とする。入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も計上する。						
2)麻酔及び手術等の状況(平成26年4月1日～7月31日)						
全身麻酔件数総数	1,355	390	632	434	451	3,262
ア 悪性腫瘍手術総数	467	183	194	89	115	1,048
イ 肺がん(C34\$)の手術件数						
開胸手術 K511\$, K514\$, K518\$	8	1	0	0	0	9
胸腔鏡下手術 K514-2\$	34	6	18	5	24	87
ウ 胃がん手術（C16\$）の手術件数						
開腹手術 K654-2, K6552, K655-42, K6572	3	2	4	0	6	15
腹腔鏡下手術 K654-3, K655-22, K657-22	17	1	9	7	9	43
内視鏡手術 粘膜切除術(EMR) K6531	2	0	0	22	0	24
内視鏡手術 粘膜下層剥離術(ESD) K6532	0	0	9	0	2	11
エ 大腸がん手術（C18\$, C19, C20）の手術件数						
開腹手術 K7193, K739\$, K740\$	4	12	11	1	5	33
腹腔鏡下手術 K719-3, K740-2\$	19	3	16	10	22	70
内視鏡手術 K721\$, K721-2\$, K739-2	6	5	24	110	12	157
オ 肝臓がん(C22\$)の手術件数						
開腹手術 K695\$	1	5	2	6	4	18
腹腔鏡下手術 K695-2	0	0	3	1	0	4
マイクロ波凝固法 K697-2	0	0	0		0	0
ラジオ波焼灼療法 K697-3	14	0	0		6	20
カ 乳がん（C50\$）の手術件数						
手術 K476\$	24	19	12	9	13	77
乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2	0	0	0	0	0	0
乳腺腫瘍摘出術(生検) K474\$	1	0	2	1	2	6
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術 K474-3	0	0	0	0	2	2
乳房再建術(乳房切除後) 二期的に行うもの K476-32	1	0	0	0	0	1
キ 転移性肺がん（C780）の手術件数						
開胸手術 K511\$, K514\$, K518	1	0	0	0	0	1
胸腔鏡下手術 K514-2\$, K513	3	2	2	5	2	14
ク 転移性肝がん（C787）の手術件数						
開腹手術 K695\$	2	3	1	6	1	13
腹腔鏡下手術 K695-2	1	0	3	1	0	5
3)放射線治療						
※以下、放射線治療件数に関する項目は、下記を参考に、必ず放射線治療責任医師の確認を取って記入すること。						
すべてのがんを対象にしたのべ患者数(平成25年1月1日～12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)						
例:平成25年3月に新患として放射線治療を受け、同10月に転移で再度放射線治療を受けた場合は2名と数える。						

1)患者数等				鳥取大学 医学部付 属病院	米子医療 センター	鳥取県立 中央病院	鳥取市立 病院	鳥取県立 厚生病院	合計		
ア-1	・体外照射			304	138	157	137	109	845		
	そのうち特殊なもの	定位照射 (脳)		0	0	0	0	0	0		
		定位照射 (体幹部)		3	0	0	3	0	6		
		強度変調 放射線治 療(IMRT)		27	0	0	5	0	32		
		・小線源治療			46	0	0	8	0	54	
ア-2	我が国に多いがん患者を対象としたのべ患者数(平成26年4月1日～7月31日の間に放射線治療を開始した患者例:平成24年4月に新患として放射線治療を受け、同7月に転移で再度放射線治療を受けた場合は2名と数える。)										
	・入院										
	肺がん 胃がん 肝がん 大腸がん 乳がん		19 1 4 4 0	5 0 0 0 1	16 2 2 0 1	7 0 0 0 0	7 0 0 0 3	54 3 6 4 5			
		・外来								0	
		肺がん 胃がん 肝がん 大腸がん 乳がん		3 0 0 0 20	0 0 0 1 17	9 6 1 0 14	4 0 0 1 6	3 0 2 3 7	19 6 3 5 64		
			全てののがんを対象とした照射回数(平成26年4月1日～7月31日ののべ照射回数)								
			・体外照射			2,849	574	1,961	941	1045	7,370
	そのうち特殊なもの		定位照射(脳)		0	0	0	0	0	0	
			定位照射(体幹部)		4	0	0	8	0	12	
		強度変調放射線治療 (IMRT)		453	0	0	0	0	453		
		・小線源治療			32	0	0	9	0	41	
イ-1	我が国に多いがんを対象としたのべ照射回数(平成26年4月1日～7月31日)										
	・入院										
	肺がん 胃がん 肝がん 大腸がん 乳がん		368 6 51 90 0	59 0 0 0 25	212 20 20 0 5	163 0 0 0 0	83 0 0 0 50	885 26 71 90 80			
		・外来									
		肺がん 胃がん 肝がん 大腸がん 乳がん		14 0 0 143 489	0 0 0 10 360	109 0 30 0 293	29 0 0 25 116	45 0 30 83 180	197 0 60 261 1,438		
			4)がんに係る化学療法 (平成26年4月1日～7月31日)								
			のべ患者数	入院患者数	282	123	198	94	118	815	
	外来患者数			391	132	366	135	126	1,150		
	*1レジメンを1人と数える。内服のみのレジメンは対象外とする。)										
	例: 当月中にエトポシド+シスプラチン併用療法4コース実施した場合は1人と数える。										
	イ	のべ処方件数	入院処方数	3,899	358	1,088	168	879	6,392		
外来処方数			86,106	482	1,693	904	1246	90,431			

1)患者数等				鳥取大学 医学部付 属病院	米子医療 センター	鳥取県立 中央病院	鳥取市立 病院	鳥取県立 厚生病院	合計
	* 抗がん剤が処方された件数に、それぞれの処方日数を 掛けた数とする。内服のみのレジメンは対象外とする。 例：当月中に、抗がん剤が4日分処方された場合は4件と 数える。								
のべ患者数（内服のみのレジメンで実施した化学療法1レジメンを1人として数える）									
ウ	のべ処方人数（内服のみ）	入院	0	65	44	18	15	142	
		外来	0	526	418	105	109	1,158	
のべ処方件数（内服のみのレジメンで実施した化学療法1レジメンを1人として数える）									
エ	のべ処方件数（内服のみ）	入院	0	1321	1,219	240	348	3,128	
		外来	0	30,455	23,806	6,225	8879	69,365	
5)検査等の実績状況									
ア	病理診断の件数								
	病理診断（平成25年1月1日～12月31日）			7,049	1,664	4,592	2,755	1,855	17,915
	細胞診診断（平成25年1月1日～12月31日）			3,922	1,940	5,231	4,278	3,008	18,379
	病理組織迅速組織顕微鏡検査（平成25年1月1 日～12月31日）			503	96	111	72	110	892
	剖検（平成25年1月1日～12月31日）			20	1	13	2	2	38
	剖検率（平成25年1月1日～12月31日）			4%	0.4%	4%	1%	0.6%	
イ	画像診断等の件数（平成25年1月1日～12月31日）								
	上部消化管内視鏡検査 （食道及び胃・十二指腸ファイバースコピー。手術に 伴って検査を行った患者数も計上すること）			3,769	1,727	2656	6,162	2,144	16,458
	気管支内視鏡検査 （気管支ファイバースコピー。手術に伴って検 査を行った患者数も計上すること）			155	57	85	77	95	469
	大腸内視鏡検査 （大腸及び直腸ファイバースコピー。手術に 伴って検査を行った患者数も計上すること）			1,084	1,006	1000	1,286	1,009	5,385
	血管連続撮影 （動脈注射、動脈造影カテーテル法、静脈造影 カテーテル法、心臓カテーテル法により、心臓 や血管内に造影剤を注入して連続撮影を行う 検査。手術に伴って検査を行った患者数も計			1,833	160	1,196	574	755	4,518
	CT検査 E2001\$			23,928	8,086	19,089	14,942	14,066	80,111
	CTガイド下生検 D409からD413までに掲げるも のをCT透視下に行った場合			67	12	275	40	34	428
	MRI検査 E202\$			8,018	2,690	4,959	3,788	2,848	22,303
	RI診断検査（シンチグラム） E100\$			776	722	640	197	529	2,864
	シングルフォトンエミッションCT（SPECT）検査			1,096	42	275	163	204	1,780
	PET（陽電子断層撮影）検査 E101-2\$、E101-			1,665	0	0	1,171	0	2,836

がん情報サロンボード

2016/02/10

がん情報サロン 富田 明 人

平成27年度がん患者等意見交換会所感

平成27年度がん患者団体等意見交換会が開催された。この会は1月25日に開催する予定であったが、天候が不順で延期され2月8日（月）に島根大学医学部付属病院看護学科棟で開催、隠岐から益田までの17サロン17名が参加した。参加者は想定したより少なかった。私も会いたい人がドタキャンで待ち人來たらず残念でした。

会議は、2部構成で前半は3月開催される病院長との意見交換会の意見発表のテーマの収集であった。

第2部では島根大学附属病院の斎藤洋司先生の「緩和ケアについて」の講演と意見交換をおこなった。

1部では4グループに分割しそれぞれの分野について意見の集約作業を行った。あらかじめテーマが出されていたが、がん治療における医療者と患者のコミュニケーション、がんサロン運営について、情報の周知、医療格差等について集約された。

医療者と患者とのコミュニケーションの課題は昨年も提示された。患者にわかりやすく丁寧に説明して欲しいとの声は患者の切望ではあるが、医師によって説明のグレードが異なる、主治医の交代により情報が引き継がれていず新たに患者が説明する必要があった等連携の不備も指摘された。医療者間の連携を強めてほしい。クリニカルパスの活用や診療サマリーの標準化等患者に寄り添った診療を期待したい。

患者も自分の病気に関心を持ち学習し「賢い患者」になる必要があると思うが、機会とかが場所が少ない。私自身も正確な情報を医師に伝えるスキル不足で困惑している。研修の機会を作れないのかな。

診療体制に医師の問診を増やして欲しい。多くの医師はパソコンの情報を患者に伝え患者の答えを訊くことが多い。患者は知識、情報とも少なく困惑するだけである。丁寧な問診による精度の高い診療は患者の信頼を得ることが出来、医療者と患者のコミュニケーションの改善にも役立つと考える。

賢い患者になるには情報必要である。都会の情報はTV、新聞、雑誌等でとれるが、身近なローカルの情報は少ない。がん情報は地域の公開講座等で行われているが、がん患者に有用な情報は少ない。また、県民に対しての告知が十分とは言えないと思う。

病院のホームページには治療内容や治療実績、スタッフの経歴等患者に参考になる情報の掲載が少ない改善を望みたい。

サロンの運営については、院内サロンであるので各病院で対応が異なっている。場所を提供するのみ、医療従事者の参加しているサロン等対応はいろいろである。いずれにしても院内サロンであるので病院のサポートは欠かせないが、患者も運営に積極的に参加するスキルアップが必要である。

がん医療の格差についての発言があった。平成19年がん医療の均てん化を目指してスタートした。その後の医療技術の進歩にしたがいいわゆる標準治療は全国の病院で受けることが出来るが、先進的な医療は情報を含めてローカルでは地域格差が生じている。これらの解消は難しい課題であるが医療者、行政、患者が連携して解決することが求められる。

サロンも高齢者が増え情熱やパワーが失われサロン間の格差も生じている。今一度体制を立ちなおす時と考える。

2部では斎藤先生に「緩和ケア」についてレクチャーしていただいた。島根県では、「緩和ケア研修会」を平成20年度に島根大学医学部附属病院で開始して以来、毎年県内6か所のがん診療連携拠点病院等で実施しています。研修会は高度な標準化されたカリキュラムで研修時間の合計は12時間以上2日間の日程で開催しています。

緩和ケアの基本的技術を習得した医師数は平成26年度までに700人を超えて研修修了者数は全国でも上位にランク付けされています。

世間では、緩和医療は終末医療との誤解が流布されていますが、緩和医療とは診療の初期から患者のさまざまな苦痛に対処する医療であることを広めたい。

会場からは2時間の研修で緩和ケアを習得できるのか？医療者以外の人も研修に参加できないのか。研修後の現場でのオペレーションについてチェックするシステムが必要である等の提案や意見が出された。

今回の会議でいろいろなことを学んだ。キーワードは「格差」である。医療格差、医療者と患者、行政と患者の志向の格差である。患者の視点を取り入れた医療に立ち戻るにはどうしたらよいのか大きな課題が残った。

(富田)

がん情報サロンボード

2016/03/07

がん情報サロン 富田明人

子どもたち 一人ひとりの笑顔のために 小児がんの課題

小児がんの講演会が3月6日（日）に松江市のホテル宍道湖で開催された。当日は生憎の雨であったが、県内各地から100名余りが集まった。

第一部では島根大学医学部附属病院 小児科医 竹谷健 氏の「小児がんと正しく向き合おう」～小児がんの現状と島根県内での取組～について

小児がんについて正しい認識をしていただき小児がんの子どもたち・家族が笑顔で過ごせるためには何をすれば良いかを考えるきっかけとなればと話した。

小児がんは治るようになってきた。グループ研究による臨床試験、遺伝子工学の進歩により遺伝子による診断、集学的治療、層別化療法等の治療の進歩や支持療法の進歩により治癒率は向上してきた。

小児がんの問題点としては、患者数が少ない。地域の医療機関が少ない。山陰では島根大学、松江赤十字病院、鳥取大学で受診できる。小児がんは血液、リンパ、中枢神経系の発症が多く抗がん剤や手術、放射線などの治療が有効だが、強い副作用があり、がんの治療が終わった後に発生する生活と健康への悪影響、晩期障害の課題である。

成長期に発症する小児がんは様々の器官に障害を及ぼす。学習障害、自立障害、就職問題等生活と健康への悪影響等医学的でなく社会的心理的問題も多い。

医療機関の整備も急務である。現在小児がん拠点病院は全国で15病院。中国地区では広島大学病院が拠点病院に認定されている。小児がん専門医の育成や病院間のネットワークの整備、患者・家族の支援に多業種との連携が必要である。

小児がんの課題は、患者、家族だけでなくすべての人が各分野で協力して一人でも多くの小児がん患者を助ける体制づくりが望まれる。

（富田）

